

全国小・中学校環境教育調査

報告書

(2014 年度調査)

滋賀大学環境総合研究センター
環境教育研究部門・市川研究室

【目 次】

調査の概要	1
学校調査の結果	2
教員調査の結果	16
文献	23
参考：2008 年度（前回）調査との比較	24
参考：2008（平成 20）年改訂 小学校学習指導要領の環境教育関連内容	31
参考：2008（平成 20）年改訂 中学校学習指導要領の環境教育関連内容	36
調査票	40

【調査の概要】

1) 調査目的

○2008（平成20）年版学習指導要領下における、小・中学校の環境教育の現状を把握する。

2) 調査対象

- 全国の公立小・中学校の50分の1を対象とし、全国学校データ研究所編『全国学校総覧 2014年版』（原書房，2013年12月10日発行）の付表第5表（中学校、p.1126）、第6表（小学校、p.1128）から、都道府県別の公立学校数に応じて割当数を算出した（小数第1位を四捨五入）。同付表の学校数には分校が含まれているが、前回同様、割当数算出においては考慮していない。
- 算出結果から、小学校420校、中学校199校を対象とし、前回調査の調査対象リスト（『全国学校総覧 2007年版』から都道府県ごとに無作為抽出）を元に無作為抽出した。
- なお、全国の公立小・中学校数は、前回調査より小学校1,770校、中学校406校が減っている（分校含む）。

3) 調査方法

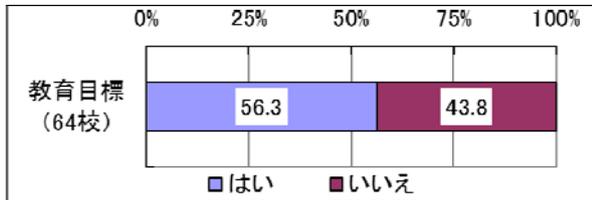
- 学校長宛の郵送形式による質問紙調査。
- 学校調査は、校長、副校長（教頭）、主任等に回答を依頼した。
- 教員調査は、担任学年にはこだわらないとした上で、学級担任を受け持っている教員のうち3～5人の回答を依頼した（調査票は5枚送付）。
- 2015年2月13日（金）発送、3月20日締め切り。

4) 回収状況

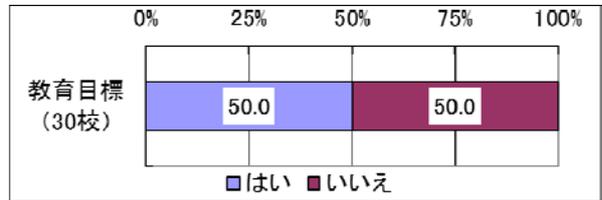
- 締め切り後に到着したものも含め、すべてを回答として取り扱うこととした。
- 小学校調査は、35自治体、64校から回答（回収率15.2%）があった。
- 中学校調査は、21自治体、30校から回答（回収率15.1%）があった。
- 小学校教員調査は、学校調査に回答のあった64校の165人に加え、教員調査のみ回答のあった4校の9人、計174人から回答があった。
- 中学校教員調査は、学校調査に回答のあった30校の93人から回答があった。

【学校調査の結果】

問1. 貴校では、今年度の教育目標や重点目標などに、環境教育に関する内容が示されていますか。

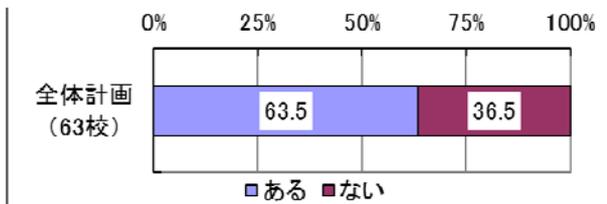


小学校

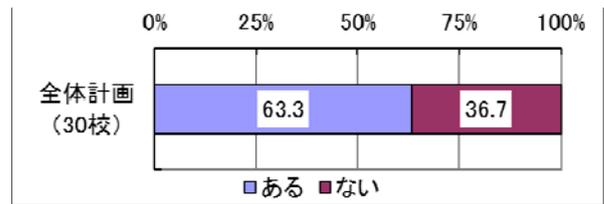


中学校

問2. 貴校には、環境教育の学校全体計画がありますか。

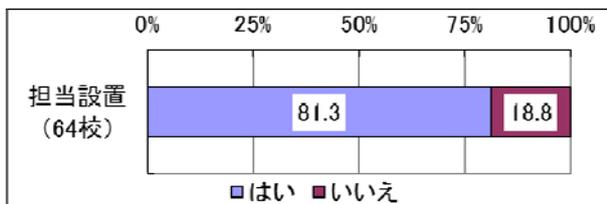


小学校

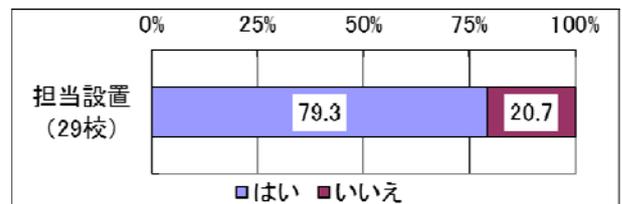


中学校

問3. 貴校では、校務分掌に環境教育担当を位置づけていますか。



小学校



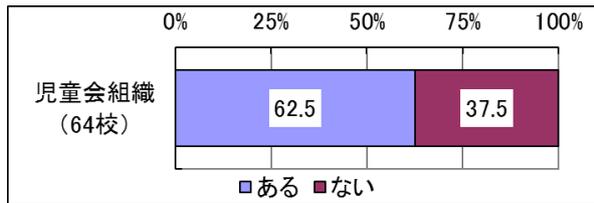
中学校

○2014年度の環境教育に関する目標設定率は、小学校約56%、中学校50%で、半数程度の学校が環境教育に関する目標を設定している。

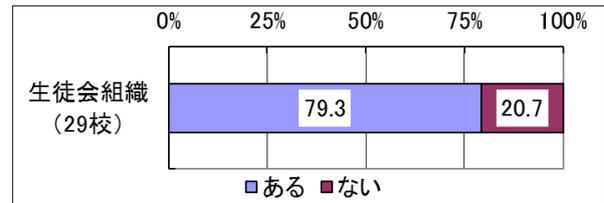
○環境教育全体計画の作成率は、小学校約64%、中学校約63%でほぼ同じ割合で、目標の設定率よりも高い。問1は「今年度」としているが、問2は限定していない。学校全体計画には、一般的に同校の環境教育の目標が書かれることからすれば、前年度(2013年度)以前に全体計画を作り、更新していない学校が含まれていると推察できる。

○環境教育主任等の担当の設置率は、小学校約81%、中学校約79%とともに約8割となっている。大半の小・中学校に環境教育担当者が置かれていると言えるものの、100%には至っていない。

問4. 貴校には、児童会（生徒会）に環境委員会などの環境に関する組織はありますか。



小学校



中学校

- 児童会、生徒会における委員会組織の設置率は、小学校 63%、中学校約 79%で、中学校の方がやや高いが、カイ二乗検定では有意差は認められなかった。
- 委員会を設置している学校に対し、委員会名と活動内容を自由記述で回答を求めた結果を下表に示す。名称は別として活動内容を見ると、小・中学校ともに美化・清掃、飼育栽培（緑化）、リサイクル（回収）に関する活動が数多く見られる。
- 特別活動に関する実践状況を尋ねた高知大学（1997：7-8）の調査結果のうち、児童会・生徒会活動の取組内容では、美化・清掃、飼育栽培（緑化）、リサイクル（回収）に関わる取組が多く見られる。直接的に比較することはできないが、約 20 年間でそれほど大きな変化はないことが想定される。

〔小学校（児童会）〕

委員会名	活動内容
環境委員会	花壇の水やり。朝そうじ等。
環境委員会	環境 ISO の取り組み。「できたかなカード」の配布・回収・点検。よくできた学級の紹介等。
環境委員会	校内の花壇の世話。水中園の管理等。
環境委員会	校内の美化活動。
環境委員会	栽培活動。エコ活動。
環境委員会	プルタブ収集。学校美化（草花の世話等）。
環境委員会	学校の環境整備。緑化環境の整備。
環境委員会	生活環境もふくめた全般的なこと。
環境委員会	プルタブ、プルトップ回収。巻き芯回収。環境をよくするための校内用ポスター作成。
環境委員会	校内美化（手洗い場中心）。校内美化のポスター作り。
環境委員会	動植物等の飼育。校内環境を整える。
環境委員会	栽培活動。花の名前を覚えてもらう週間。
環境委員会	ペットボトルのふたや、空き缶などを呼びかけ集めている。
環境委員会	植物への水やり。小動物の世話。加茂川の水質調査等。
環境委員会	プルタブ、アルミ缶、エコキャップの回収と整頓。これらの結果を放送で報告。牛乳パック回収。学校内外の環境を整える。
環境委員会	校舎内外の環境整備と全校児童への掲示・ポスターなどによる啓発活動。
環境・福祉委員会	清掃道具の点検。花の世話。収集の呼びかけ。整理。浜そうじ（6月）。
環境・美化委員会	アルミカン。ペットボトルキャップ回収。花壇整備等。
環境委員会。美化委員会。	ゴミの始末。花壇の世話。

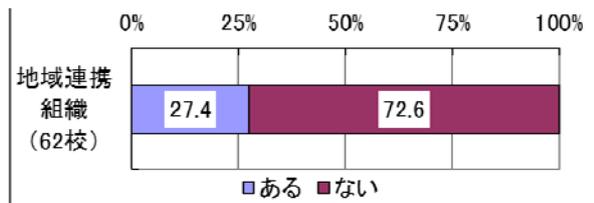
環境美化委員会	アルミ缶回収。グリーンカーテン（ゴーヤの栽培）。清掃用具点検等。
美化委員会	ごみの分別。
エコ委員会	日ごろの電気水チェック。紙資源回収。資材回収の業者わたし。
美化・栽培委員会	学校の美化。植物の栽培。
緑化委員会	花の栽培。枯れ葉を集めて堆肥づくり。
栽培委員会	栽培活動。
飼育委員会。栽培委員会。	烏骨鶏の世話。校内の花壇の管理。
栽培委員会	花だんやプランターで植物を育てる。学校の植物を紹介する。
学校緑化委員会	募金。植物の世話。
赤十字委員会	プルタブ回収。花だんの整備。
生き物委	花を植える活動。
①環境委員会。②たてわりグループ6年。③リサイクル委員会。	①校舎内外の環境の美化。ゴミの分別。自然保護。②校舎前の街路マスの花の活動のリーダー。③リングプル回収活動。ゴミダイエット活動。
志津環境局	ペットボトルキャップの回収。環境会議への参加。
ISO 環境委員会	ゴミの分別。減量推進。エコキャップ回収。
栽培委員会	野菜や草花の栽培を通して、環境問題にも目を向けていく。
整美委員会	ゴミ拾い。節水・節電のよびかけ。花植え。
美化委員会。環境福祉委員会。	校内の美化（花の手入れ）。清掃用具の点検。アルミ缶の回収。
飼育・園芸委員と美化委員	飼。生き物の世話。草ぬきなど。美。清掃強化週間の運営。
JRC	清掃活動等。
福祉	空き缶回収を月一回ずつ行っている。
みどり	栽培活動。校内の「なかよし川の清掃」。校内の観賞用魚のえさやり。
放送・JRC 委員会	放送。キャップ集め。アルミかんリサイクル。ゴミひろい等。

〔中学校（生徒会）〕

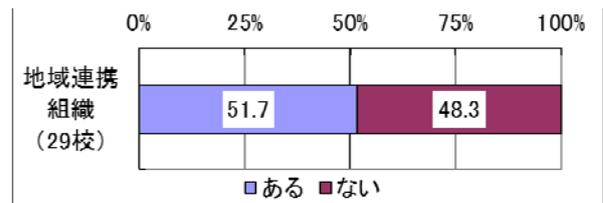
委員会名	活動内容
環境委員会	花の水やり。美 Clean コンクール（全クラス対抗の清掃のキレイさを競う）。サヨナラ清掃（環境委員が一日の最後に教室の机の整頓を行う）。
環境委員会	植物の水やり。動物のエサやり。
環境委員会	クリーン作戦。アルミかん回収。紙のリサイクル。園芸など。
環境委員会	節電・節水の呼びかけ（ポスター掲示）。ペットボトルキャップ、アルミ缶、牛乳パックの回収。
環境美化委員会	毎日の清掃点検。各教室のごみ集め。愛校作業。ワックスがけや水道掃除。花壇の手入れ。花の世話。
環境美化委員会	校内の清掃。整備活動の推進。
エコ委員会	リサイクル活動。日常の節電・節水等の呼びかけ。「緑のサヘル」への募金活動。エコ学習会（年2回）。エコシンポジウム（年1回）。
整美専門委員会	校内美化に関する活動。（花、植物等への散水や、育てる活動。ゴミをなくす活動。ゴミ分別等。）
整美委員会	花壇整備。環境整備。
整美委員会	ごみの分別収集。古紙、アルミ缶のリサイクル活動。
整備緑化委員会	花だんの整備。校内環境美化活動。緑の羽根募金活動。
美化委員会。緑化委員会。	美化委員として、お花などの水やりまでを行い、緑化委員会では、学校に隣接する農場で植物や野菜を育てて収穫している。また、環境に対してのこと

	を生徒朝会で発表している。
整美委員会	校内の環境整美。美化活動を中心に取り組んでいる。（清掃、花だん、学級設営など）。
整美委員会	清掃点検。清掃用具点検。ワックスがけ。花壇作業。雪かき。
美化委員	地域のボランティア活動（清掃活動）の企画・運営。
整美	クリーン作戦。花の苗植え。清掃強調週間。
造園委員会。清美委員会。	樹木・草花の管理育成。校舎内外の清掃美化。
美化委員会	校舎内外の美化。主に清掃関係。
美化委員会	落ち葉はき。プランターによる花の管理。
花と緑いっぱい係	環境教育をことさら意識したものではありませんが、植栽を中心に緑のカーテンや藍を育てる係が全クラスにあります。
美化。リサイクル。園芸。	
生徒会執行部	リサイクル活動。
文化常任委員会	ペットボトルキャップの回収。牛乳パック集め。
園芸委員会	花だん整備。グリーンカーテン設置。

問5. 貴校には、地域やPTAと連携した環境委員会などの環境に関する組織はありますか。



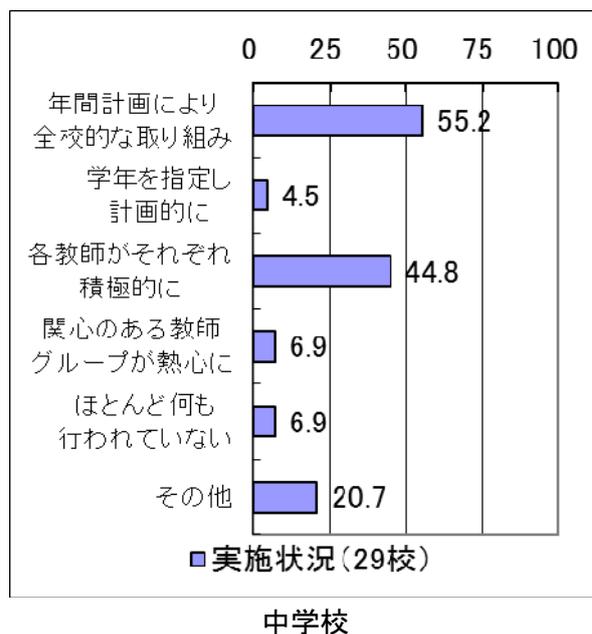
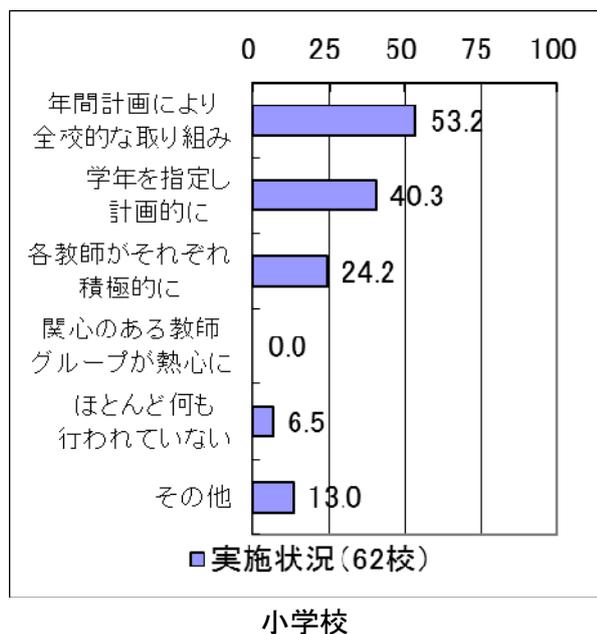
小学校



中学校

- 地域やPTAと連携した組織の設置率は、小学校約27%、中学校約52%で、中学校の方が高く、カイ二乗検定で有意差が認められた。
- 小学校の方が地域やPTAとの結びつきは強いと考えられるが、やや意外な結果となった。母数が少ないことから、回答を寄せた中学校の特性が影響している可能性が想定できる。

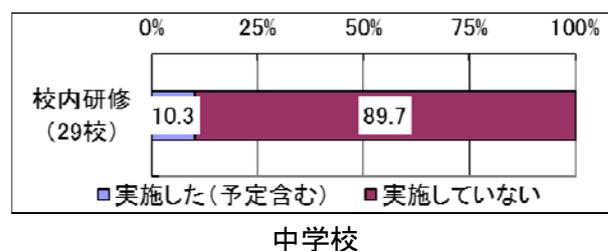
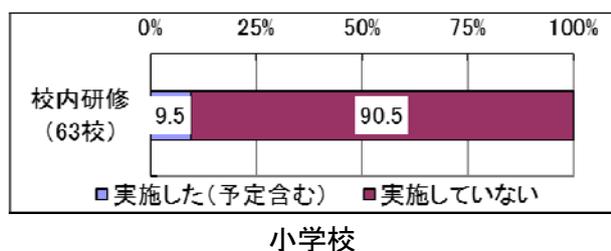
問6. 貴校における環境教育の実施状況をどのように捉えていますか。次のうち、該当するものをいくつでも選んで下さい。



○小・中学校ともに「年間計画により全校的な取り組みを行っている」との回答が最も高く、小学校約53%、中学校約55%で、環境教育は全校的活動の中で行われる傾向が読みとれる。

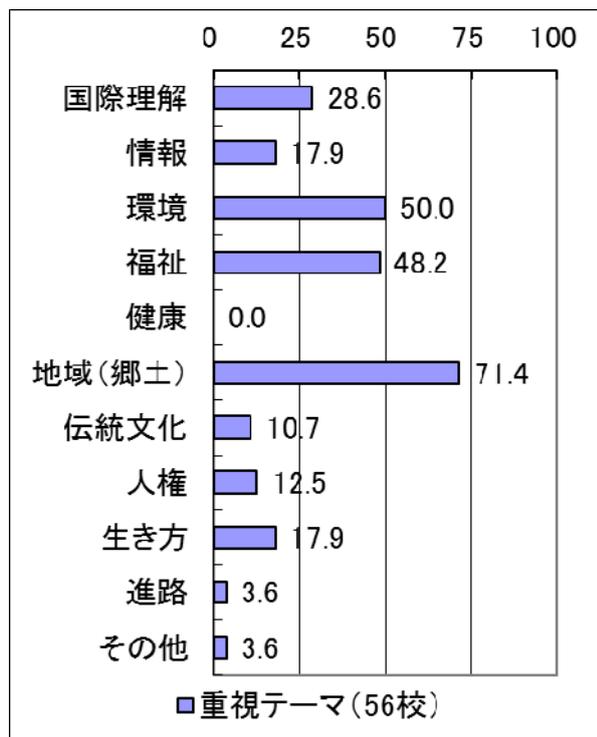
○小・中学校の違いを見ると、小学校では「学年を指定し計画的に行っている」傾向があるのに対し、中学校では「各教師がそれぞれ積極的に行っている」傾向が読みとれる。ここには、学級担任制と教科担任制の影響がうかがえる。つまり、中学校では環境教育関連内容が多く含まれている教科（例えば、社会、理科、技術・家庭科）の担当教員が、教科の学習の中で環境教育に取り組んでおり、小学校では環境教育関連内容の多い学年（例えば、4年生、5年生）を指定して取り組んでいる可能性が高いと想定できる。

問7. 貴校では、昨年度と今年度に環境教育に関する校内研修を実施しましたか（実施予定も含む）。

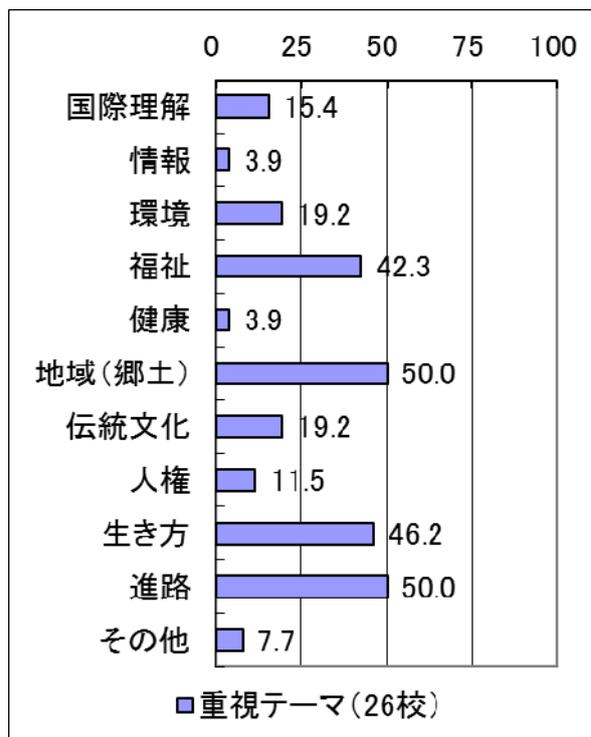


○校内研修の実施率は、小・中学校ともに約1割と低率である。

問8. 貴校の「総合的な学習の時間」として、特に重視しているテーマを、以下の中から該当するものを3つ以内で選んでください。



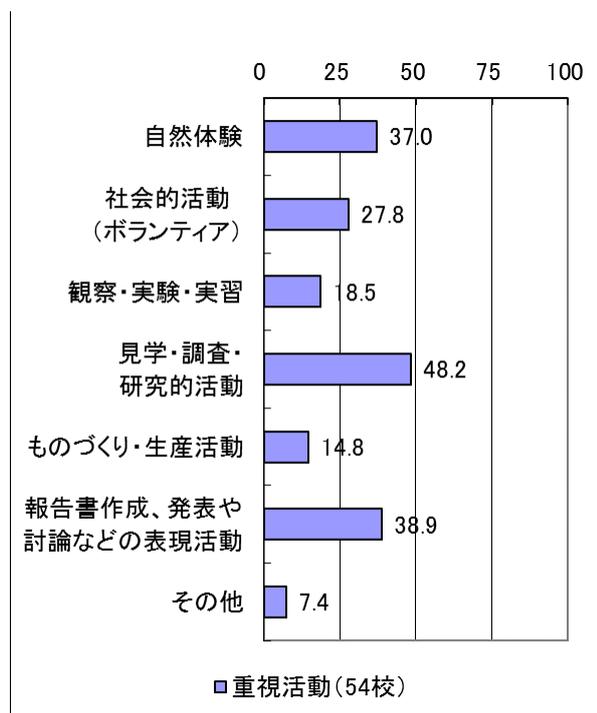
小学校



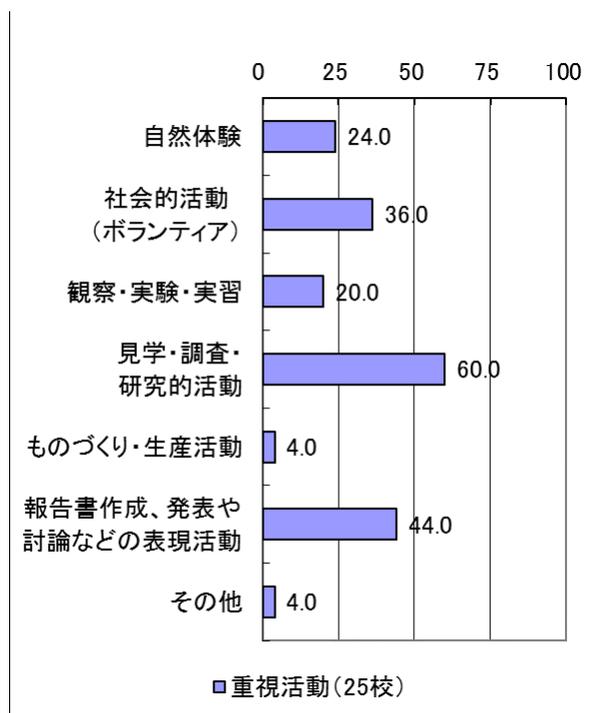
中学校

- 小・中学校ともに第1位は「地域(郷土)」で、小学校約71%、中学校50%となっている。
- 「環境」は、小学校では第2位で50%となっているが、中学校では約19%と低い。
- 「福祉」が小・中学校ともに4割を超えていることに比べると、「環境」は小・中学校の違いが顕著である。
- 中学校で「進路」「生き方」が第2、3位となっているのは、2008(平成20)年の中学校学習指導要領で、総合的な学習の時間の学習内容に「職業や自己の将来に関する学習活動」が盛り込まれたことの影響が考えられる。

問9. 貴校では、「総合的な学習の時間」においてどのような活動を重視していますか。以下の中から特に重視しているものを2つ選んでください。



小学校



中学校

○小・中学校ともに第1位は「見学・調査・研究活動」で、小学校約48%、中学校60%となっており、第2位は「報告書作成、発表や討論などの表現活動」となっている。この結果からは、総合的な学習の時間では、いわゆる調べ学習と、調べたことの発表という学習方法が定着する傾向が読み取れる。

○「自然体験」は、小学校では37%と第3位であるが、中学校では24%で第4位となっている。

問 10. 今年度（2014（平成 26）年度）、あなたの学校では「総合的な学習の時間」において、環境に関してどのような実践をされましたか。以下のうち、該当するものをいくつでも選んでください。（実践した学年にはこだわりません）

	小学校 (%)	中学校 (%)
校庭、公園、森、山などで動植物や自然に親しむ活動	51.6	40.7
川、池、海などで動植物や自然に親しむ活動	33.9	22.2
動植物の飼育栽培や生産体験	53.2	14.8
環境美化・清掃や分別回収などのボランティア体験	51.6	66.7
生命の尊さや環境倫理についての学習	32.3	7.4
資源・エネルギー問題についての学習	27.4	11.1
地域の開発やまちづくりについての学習	30.7	22.2
地球的規模の環境問題についての学習	27.4	11.1
国内や地域の自然環境についての学習	32.3	22.2
国内や地域の気候や水の汚れについての学習	17.7	7.4
国内や地域の廃棄物（ゴミ）やリサイクルについての学習	56.5	22.2
その他	3.2	7.4

※：有効回答数は、小学校 62 校、中学校 27 校。

※：マーカー及びゴチックは上位 3 項目（同値含む）。

- 小学校の第 1 位は「国内や地域の廃棄物（ゴミ）やリサイクルについての学習」で、約 57%、第 2 位は「動植物の飼育栽培や生産体験」で約 53%、第 3 位は「校庭、公園、森、山などで動植物や自然に親しむ活動」と「環境美化・清掃や分別回収などのボランティア体験」が約 52% で同値となっている。
- 中学校の第 1 位は「環境美化・清掃や分別回収などのボランティア体験」で約 67%、第 2 位は「校庭、公園、森、山などで動植物や自然に親しむ活動」で約 41%、第 3 位は 4 項目が約 22% の同値となっている。
- 小学校では上位の 4 項目がすべて 5 割を超えているのに対し、中学校で 5 割を超えているのは第 1 の「環境美化・清掃や分別回収などのボランティア体験」のみである。中学校の「総合的な学習の時間」の実践内容が「美化清掃・分別回収」に偏る傾向が読み取れる。
- 小・中学校ともに「校庭、公園、森、山などで動植物や自然に親しむ活動」の割合が高いのは、2007（平成 19）年の学校教育法等の一部を改正する法律の第 21 条第 2 項に「学校内外における自然体験活動を促進し、生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養うこと」と、自然体験活動の促進が盛り込まれたことが影響している可能性が考えられる。

問 11. 今年度（2014（平成 26）年度）、「総合的な学習の時間」の環境に関する学習として、貴校が実践された学習内容・テーマについて、記入例を参考に簡単にお教え下さい。

○以下に、本設問に対する回答の記述内容を記す。

〔小学校 第3学年〕

ピーマン博士になろう
いも苗植え。六年生を送る会を成功させよう。英語で遊ぼう。地域のことを調べる（まちたんけん、お店調べ、昔のくらし）。パソコン学習。冬野菜を植えよう。
人がつながる町金沢。和菓子づくり。伝統行事（中村音頭や加賀とび）。山間の小学校との交流活動。
老人ホームの慰問。
～発見！海のたからもの～。御崎の海の環境調査（アマモの栽培・EM だんご作り）。
たんけん、発見、みんなの江南。
とび出せ！わくわく石塚発見隊。郷土調べ。
わたしたちの町の川（味原川）探検と保護。
永山新川の生きものたちⅠ（植物）。
博士になろう。お年寄と交流しよう。学校発見。
地域ゴミ調べ。
地球環境をテーマとした学習。
地域の環境を知ろう。川の水質調査。
「生き物図鑑を作ろう」。動植物採集。図鑑ガイドブック作成。「昔から続く行事やくらし」。地域の人へのインタビュー。行事参加。
豆について調べる。牛乳について調べる。お年寄や地域の人とふれあう。
校庭の草木を調べよう。
水について。
〈発信！久米っ子情報局パート1〉。ふるさと久米の町の再発見。〈自分大好き〉。自分のことをみつめよう。〈みんな大好き〉。手話について知ろう。
ふるさと体験（地元の資料館をもとに）。
いわき万本桜へ行こう。地域の森林の観察。
バケツ稲や野菜づくり。文化施設周辺の清掃活動。
地域の自然について調べる。
地域の自然。地区たんけん。
「かんきょうを守る」（ゴミ問題）。
地域の河川の生き物しらべ。ギフチョウの飼育など。
まちづくり。市のいいとこさがし。
大豆の栽培、加工。
地域学習（再発見、わたしたちの町〇〇）。地域のいいところを見つける。地域の人、施設をたずねる。地域の特徴を調べる。
すてき発見！田沢湖。やさしさいっぱいわかばっ子（福祉）。
森林学習。
ぼくらまちのたんけんたい。
人権（キラキラタイム）。情報教育（スキル・モラル）。「すてきなまち紫明」暮らし。「京都のみりょく」伝統文化。
身近な自然観察（昆虫・植物・水生昆虫ヤゴ）。植物の育ち（マリーゴールド・ヒマワリ・ホウセンカの育成）。六甲山の自然観察（六甲自然の家でのネイチャービンゴや木々を使っての昆虫作り）。里山である保久良山の散策（ドングリ拾いと）。

分別とリサイクル。
わくわく藤岡たんけん。
有家町の山や川、森林の分布、土地利用について調べる。学校の近くの自然の中で見られる生き物・植物について調べる。有家川の流れや水辺の様子などを調べる。
ほうれん草の生産活動。
めざせ生き物はかせ。古仁屋の名人さんを見つけよう。
みと町たんけん隊（校区たんけん）。
山寺マップを作ろう。立谷川の生き物探し。ありがとう6年生。

〔小学校 第4学年〕

地域の農作物についてしろう
パソコン学習。六年生を送る会を成功させよう。エコセンターと浄水場の見学。消防署の見学。いも苗植え。地域のことを調べる（防災マップ作り）。浜そうじ。英語を学ぼう。
地域のごみしらべ。
伝統が生きずく町金沢。和傘づくり。室生犀星（偉人に学ぶ）。ウサギやサケの飼育。
地域の植物の観察や保全活動。
～つながりを大切に～。リサイクルセンターなどの見学を通して、ゴミ減量やリサイクルについて考え、自分たちの生活に生かしていけるようにする。
一宮市環境センター愛知県下水道科学館見学（ごみ、水、下水）。一宮市「緑のカーテン教室」。県「ストップ・ザ・温暖化教室（地域温暖化講座）。環境教育プログラム講座「川をよごしたのはだれだ」アクアワールド水郷パークセンター。
自然と、ともに生きよう一ひといきいき自然いきいき一。
とび出せ！やさしさ発見隊。障害がある人へのボランティア活動についてまとめる。
永山新川の生きものたちⅡ（わたり鳥）。
奥入瀬川とくらし。世界のまつり。
地域のごみ調べ。
ゴミ処理工場見学。
リサイクルについて調べよう。ゴミ・CO2 排出量調べ。
「ごみダイエット作戦」。家庭のごみ調べ。ごみ拾い活動。「すてきな農園をつくろう」。夏菜の有機栽培。郷土料理。
緑のカーテン。パソコンと友だち。くらしをささえるひみつ（ガス、電気、水道）。福祉について学ぶ。
太宰府小アースレンジャー。
水について。野性生物。海岸侵蝕。PM2.5。放射能。ごみ・資源。河川。ペット問題。外来種。海。温暖化。省エネルギー。病気。環境ホルモン。
エコ・スクール活動。ゴミの分別。紙の回収。
〈発信！久米っ子情報局パート2〉。伝えようふるさと久米。〈わたしたちにできること〉。体験しよう（車いす・高齢者疑似・点字）。〈わたしたちにできること〉。わたしたちにできることを提案しよう（高齢者施設との交流）。
地域のごみ調べ。パッカー車調べ。清掃工場の学習。
ふるさと発見（地域の歴史あるものを調べる）。
いわき万本桜へ行こう。
川の水質調査（水質、水生昆虫）。清掃。野菜の栽培。
水や電気等の資源やごみ処理等の環境問題について学習する。
北上川の水質調査。
野村の環境について知ろう。
「かんきょうを守る」（ゴミ問題）。
福祉学習。施設訪問、体験。障がいのある方に学ぶなど。
水の行方。

公園清掃、活用。
環境（自分にできること）社会科と関連して、ゴミ、水を中心に調べる。家庭・地域のゴミの分別。家庭でのエコ（水、電気、物）。学校内での取りくみ（水、電気、ゴミ、清掃）。
生保内環境探検隊。仙北市観光探検隊。
地域・家庭のゴミ調べ。川の水質調査。地球温暖化教室。
リサイクルに関する体験活動。
古前小学校環境調査隊。ゴミ調べ。川原の清掃活動。
人権（キラキラタイム）。情報教育（スキル・モラル）。「自然の中に生きるわたしたち」環境。「共に生きる」福祉。
水、ゴミなどの環境問題。
身の周りのゴミ調べ。ゴミの分別。ゴミの処理の仕方（リサイクル）。
環境を守ろう。京セラの出前授業。調べ学習。
分別とリサイクル。地球温暖化。ゴミ問題。大気汚染。水質汚染。土壌汚染。
わたしたちのエコライフ。
有家川がどのように地域に広がっているか調査する。森林の役割について理解し森林と川の関係を知る。有家川や上流の環境を守り改善するための方法を話し合う。
リサイクルについて。ゴミと環境問題について。
島口名人になろう。入力名人になろう。
うさぎとなかよし（動物飼育）。
宿泊学習 in 自然の家。リサーチ立谷川。山寺調査隊。

〔小学校 第5学年〕

米作りをしよう
パソコン学習。六年生を送る会を成功させよう。いも苗植え。囲碁。卒業式に向けての準備。米作り・収穫祭。お年寄りへの手紙。スキー体験学習。浜そうじ。
環境に優しい町金沢。犀川。食育（加賀野菜）。校区の文化歴史調べ。
「米作り」体験活動。
見つけたぞ、地域の誇り、自分のよさを。
米づくりにトライ！。校内の水田で米づくり。カムバックサーモンにトライ！。鮭の卵の孵化から放流（調べる）。
米作りに挑戦。いい所発見十和田市。仕事体験。
びわ湖のヨシ探検。ヨシ笛作り。水質比べ。
地域環境について。
ライスウォッチング。環境を守る気持ちを広げよう。地球温暖化。環境問題について考える。
「米作りにチャレンジ」。有機農法での稲作。「水俣に学ぶ肥後っ子教室」。環境センター見学。水俣病の歴史。水俣の環境対策。
地域安全マップ。環境学習「エコプロジェクト」。インターネットの活用。榛名探検隊（移動教室に向けて）。
赤米を育てよう。
公害について。森林について。
〈自然の恵みの中で〉。久米の自然や久米川を調べよう。〈久米っ子エコ大作戦〉。環境問題について調べよう。〈命・平和についてわたしたちにできることを考えよう〉。原爆や平和について考えよう。
児童会。ゴミひろい。
ふるさと体験（茶道に親しむ活動）。
いわき万本桜へ行こう。環境問題について調べよう。地球環境を考えよう。
米づくり（田植え、観察、稲刈り、収穫祭）。森林におけるフィールドワーク。地域の防災マップ作り。
米づくりに学ぶ。琵琶湖を知ろう。

自然教室。農業問題。環境保全。
世界の環境汚染問題。
森林学習。体験、実習。間伐体験など。
米作り。
宿泊学習。
食育(米づくり体験を通して)。社会、家庭科と関連して。米を通しての食育(日本の伝統食など)。
私たちの山秋田駒ヶ岳(含防災)。お米探検隊。
自分たちの地域と野外活動でおとずれる地域の環境の違いを調べる(水、空気、植物、昆虫、水生生物)。調査結果の発表と環境保護を訴える劇。
森林での植物調べ。
考えようみんなの地球。
環境にやさしい生活。環境問題について。
人権(キラキラタイム)。情報教育(スキル・モラル)。「広辞苑に学ぶ」生き方。「エコライフチャレンジ」環境。「スチューデントシティ」生き方。
富士山やその周辺の自然。
兵庫県北部のハチ高原の夏の様子を自然学校で観察(夏)。
もち米を作ろう(田んぼで米づくり)。
エコカーについて。
われら渡良瀬探検隊。
ホテルの生態について調べ飼育をしたり幼虫を放流したりする活動に取り組む。河川環境を大切にするための計画を立てたり、環境調査に取り組んだりする。
米の生産活動。
野外活動と関連した内容。「自然から学ぼう」。
きよら島いつまでも。奄美の味にふれよう。
みと地米をつくろう(お米づくり)。
宿泊学習 in 自然の家。山寺の魅力発見。ありがとう6年生。

〔小学校 第6学年〕

地域の古墳を調べよう
いも苗植え。修学旅行事前学習。地域のことを調べる。六年生を送る会を成功させよう。浜そうじ。人権について考える。卒業式に向けて。地震について調べる。
未来に向かう町金沢。金沢の歴史探訪。金沢市の紹介。外国と金沢との違い。
地域の行事。伝承芸能等の見学や研究。平和についての学習。
伝え合って、ともに生きよう。
ふるさと再発見。那珂川とわたしたちの生活について調べる。
函館をもっと知ろう。地域の偉人を調べよう。12才の出發。
自分にできること(環境)を考えて。
榛名へGo!。移動教室へ向けて。
日光探検隊(移動教室に向けて)。日本の文化、外国の文化。中学校交流。感謝の気持ちを伝えよう。
地球環境について。
〈命・平和についてわたしたちにできることを考えよう〉。広島に訪れ、学んだことわたしたちにできることをまとめ、発信しよう。〈米づくりとわたしたちの生活〉。米について調べよう。〈みんなで生きるために〉。幼稚園との交流。
児童会。ゴミひろい。
おもてなしの心(茶道教育)。
ふるさと発見(南湖公園や小峰城を巡り地域の歴史を知る活動)。
いわき万本桜へ行こう。
学校周辺の文化財の清掃活動。環境・エネルギー問題への取組。地域の文化・歴史調べ。

地域の清掃活動（地域行事との関連）。
谷汲踊りの継承。
エネルギー。
防災教室。
空き缶回収。古紙回収。
12才の力で（自分の目標に向かって）。どんな行動、取りくみが学校のリーダーとしていいのか。
世界に目を向けよう（世界の様子調べ）。未来に目を向けよう（進路）。（仙台、松島に行き、）自分たちの郷土をよりよく知ろう。
人権「キラキラタイム」。情報教育（スキル・モラル）。「平和について考えよう」平和。「夢に向かって」生き方。
育てたドングリの苗を保久良山に植樹。兵庫県北部のハチ高原の冬の様子をスキーキャンプで体験（冬）。
CO2削減をくらしの中で取り入れよう。
ふるさと藤岡。
ホタルの飼育をしたり、幼虫を放流したりする活動に取り組む。有家川の環境美化に取り組む。
先人からのメッセージ。未来の自分へ。郷土の先人に学ぼう。
歴史たんけん隊（地域の歴史学習）。
修学旅行 in 日光・東京。山寺の魅力を伝え隊。中学へ向けて。

〔中学校 第1学年〕

森林環境学習
「ふるさと〇〇～自然・文化・歴史」。（郷土の自然。郷土の文化歴史。他地域の自然。大地のつくり。研修。登山。）
テーマ「水戸に生きる」～自己を見つめ、未来を見据えた活動を通して～。自分を取り巻く環境を知り、身近な地域や歴史を知ろう。水戸の環境、歴史、偉人について知る調べる。知る→調べる→発表する→追加調査→まとめる→発表する。
佐伯市のマリンカルチャーセンターにおいて、地域の自然に親しみ、調べたことを壁新聞で発表する。
自然について課題テーマを設定し、情報収集と調査活動に取り組み、研究のまとめを行う。
学年テーマ「身近な視点から学ぼう」。森林体験学習。川体験学習（川の水質調査—水生昆虫）。EM学習会。ワークショップ（「原子力発電について考える」）。
「地域の自然を知ろう！」。～野外観察を通して学ぶ～。
海岸の清掃。サツマイモ栽培。
郷土学習。
交流学习。職場体験学習。課題学習。農業体験（学校ファーム）。
妙高自然教室。クリーン作戦。
地域について考えよう。地域の歴史について情報収集。市役所担当課による講話。資料作成。
苗木植え。花だんづくり体験。
「学校のまわりの生物」。
大西ボランティア活動。地域の清掃年2回。地域住民とも共に活動。海岸清掃年1回。地域住民と共に活動。
県の歴史や自然。地域の環境調べ。勤労体験（自然体験も含む）。自然との共生（環境についての学習）。
地域の自然に親しむ活動。
福祉交流体験学習（車いす、アイマスク体験）。健康体験学習（ブラッシング講座）。
小中ボランティア活動。
赤城山での自然見学。

〔中学校 第2学年〕

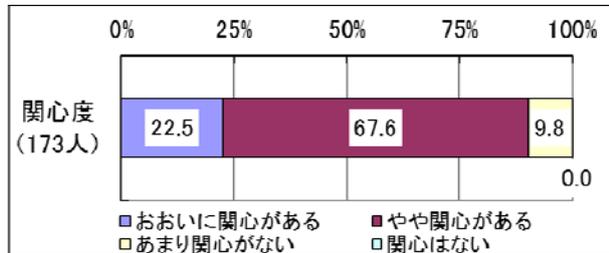
「ふるさと〇〇～産業」。(他地域の仕事。郷土の産業。職場体験。首都の産業。)
自分自身を見つめ、これからの生き方を考えよう。「船中泊を伴う自然教室」実施に伴って。北海道の歴史、環境を知る→水戸と比べてみよう→「船中泊」を通しての発表会。
学年テーマ「社会から人から学ぼう」。職場体験学習(リサイクル活動等)に取り組み企業や団体)。NPO・NGO訪問(環境に関わる団体)。「緑のサヘル」講演会。
「海洋温度差発電、海洋深層水の利用」施設の見学。
海岸の清掃。
職業しらべ。
宿泊課題学習。地域との交流。(郷土の文化)。福祉学習。課題学習。農業体験(学校ファーム)。クリーン作戦。
職業と進路について学習しよう。職業調べ(〇〇になるには)。職場体験学習。地域の高校、専門学校調べ。
海の野外活動。(自然体験)。(清掃)。
大西ボランティア活動。地域の清掃年2回。地域住民とも共に活動。海岸清掃年1回。地域住民と共に活動。
伝統文化。平和。
地域の自然環境に関する講話(大学教授による)。地域の自然に親しむ活動。
職業体験学習(3日間)。進路学習。
小中ボランティア活動。除雪ボランティア。

〔中学校 第3学年〕

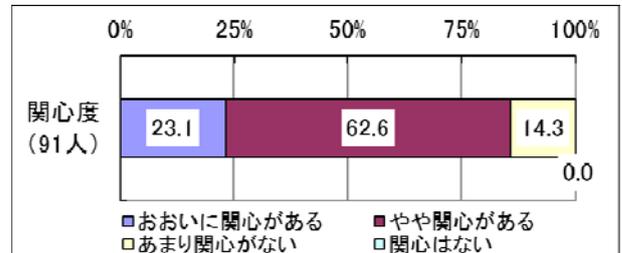
「これからの〇〇・自分」。(首都の産業。郷土のまちづくり。憧れの生き方に学ぶ。)
自分と自分を取り巻く社会との関わりについて考えよう。修学旅行事前調査。京都奈良の歴史、環境を知る→未来の水戸への提言(テーマ設定→調査→発表)→5年後の自分への手紙。
学年テーマ「つながりを学ぼう」。「森は海の恋人体験学習」(植林活動、海辺の清掃等)。3年間の学習を振り返って環境に関する個人レポートの作成(学年発表会、エコシンポジウムでの基調提案等)。
「海浜清掃」。
海岸の清掃。
職場体験。
京都・奈良。課題学習。講演(健康、環境、福祉)。農業体験(学校ファーム)。
クリーン作戦。
福祉に関する学習。市、県の福祉に関する情報収集。福祉ボランティアに関する講話。福祉体験。
「自然災害による私たちへの影響」。「地域の風評被害は今」。
大西ボランティア活動。地域の清掃年2回。地域住民とも共に活動。海岸清掃年1回。地域住民と共に活動。
福祉。環境学習の振り返り。
「街をきれいに」。松本市の街を歩き、ゴミを拾うなど美化に努めたり、地域の方と花の苗を植えて街の環境を整える。「植物に名札をつけよう」。校内の木を調べ、名前などを記したプレートをつける。
地域の自然に親しむ活動。
環境に関する学習には取り組んでいない。
訪問研修(東京方面修学旅行3日間)。進路学習。
市内のまつりに参加し、ゴミ拾い等の呼びかけ。
小中ボランティア活動。村総合計画策定ワークショップ会議。

【教員調査の結果】

問1. あなたは、環境教育に関心がありますか。次の中から、該当するものを1つ選んでください。



小学校



中学校

○環境教育に対する教員の関心度は、小・中学校で似た傾向を示している。

○「おおいに関心がある」と「やや関心がある」を足した関心のある層は、小学校約90%、中学校約86%となっており、関心度は高い。

問2. 「学校における環境教育」と言われた時、思い浮かぶ指導内容はどのようなことですか。次の中から、まず思い浮かぶことがらを3つ以内で選んでください。

〔小学校〕

選択肢	%
自然の仕組みや成り立ちの学習	8.1
社会の仕組みや成り立ちの学習	2.3
地域の動植物や地形などの学習	6.4
地域の文化や生活習慣などの学習	5.2
地球的規模の環境問題の学習	31.8
地域や国内の環境問題の学習	22.5
人間と環境の関わりの学習	35.3
資源、エネルギーに関する学習	25.4
環境に配慮した生活の仕方の学習	33.5
自然とのふれあい活動	15.0
緑を増やす活動	8.1
動植物の飼育栽培活動	8.1
ゴミの分別やリサイクル活動	57.2
地域の美化・清掃活動	8.7
空気や水の汚れなどを調べる活動	13.3
標語や作文、ポスターの制作	1.2
環境に関連する施設の見学	4.6
特に思い浮かぶものはない	0.0
その他	1.7

※：有効回答数は173（人）。マーカー及びゴチックは上位3項目。

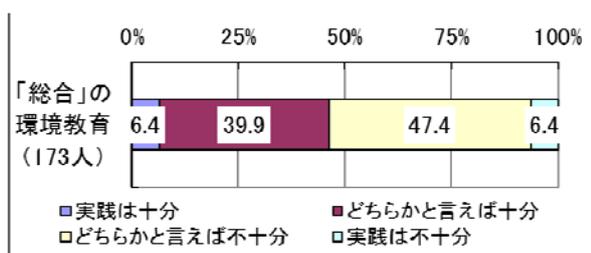
〔中学校〕

選択肢	%
自然の仕組みや成り立ちの学習	9.8
社会の仕組みや成り立ちの学習	3.3
地域の動植物や地形などの学習	2.2
地域の文化や生活習慣などの学習	4.4
地球的規模の環境問題の学習	46.7
地域や国内の環境問題の学習	19.6
人間と環境の関わりの学習	31.5
資源、エネルギーに関する学習	47.8
環境に配慮した生活の仕方の学習	29.4
環境に関する政策や法律、条約などの学習	1.1
自然体験や野外活動	12.0
飼育栽培や生産体験、緑化活動	9.8
ゴミの分別やリサイクル活動	34.8
地域の美化・清掃活動	20.7
地域の環境調査	7.6
標語や作文、ポスターの制作	4.4
環境に関連する施設の見学	1.1
特に思い浮かぶものはない	1.1
その他	1.1

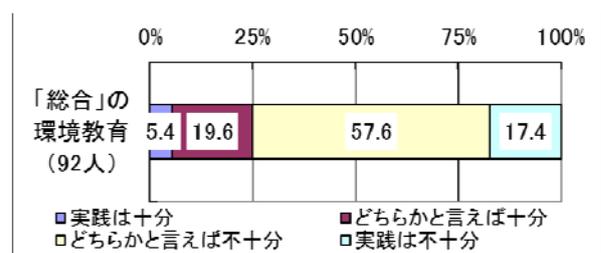
※：有効回答数は92（人）。マーカー及びゴチックは上位3項目。

- 本設問は、小・中学校で選択肢が異なるので、直接対比することはできないが、上位3項目を見ると、「ゴミの分別やリサイクル活動」は共通しているが、他の2項目は異なっている。
- 小学校では、第1位は「ゴミの分別やリサイクル活動」（57.2%）で5割を超えているものの、その他は30%代、ないしそれ以下となっている。
- 小学校の第2位は「人間と環境の関わりの学習」（35.3%）、第3位は「環境に配慮した生活の仕方の学習」（33.5%）である。
- 中学校は、5割を超えた項目はないが、第1位は「資源、エネルギーに関する学習」（47.8%）、第2位は「地球的規模の環境問題の学習」（46.7%）で5割近くとなっている。

問3. あなたは、「総合的な学習の時間」の環境教育実践の現状について、どのようにとらえていますか。次の中から、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。



小学校



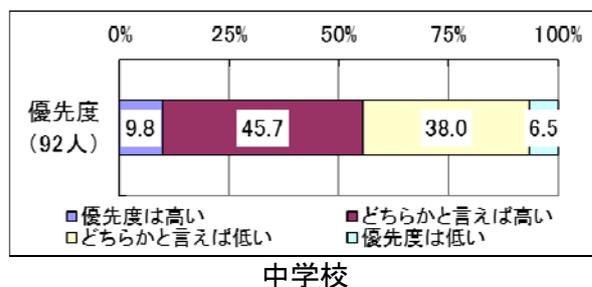
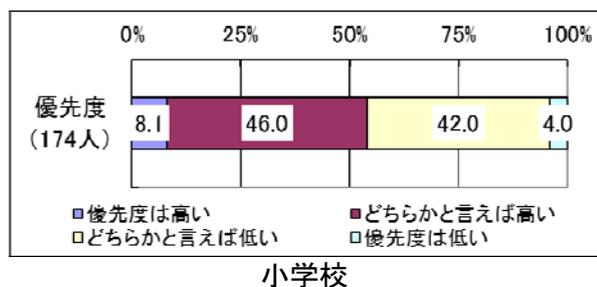
中学校

○「総合的な学習の時間」の環境教育実践の現状とらえ方に関しては、小学校と中学校で違いが見られる。すなわち、小学校では「実践は十分である」、「どちらかと言えば十分である」を足した割合が約46%と5割に近いのに対し、中学校では25%と低くなっており、カイ二乗検定で有意差が認められた。

○市川（2014）において、中学校の「総合的な学習の時間」での環境教育の低調さが指摘されているが、教員のとらえ方においても同様のことが裏付けられたと言える。

○なお、この結果は、学校調査の間8（総合的な学習の時間で重視しているテーマ）で、「環境」を重視する割合が、小学校で50%、中学校で約19%と中学校が低いことと関係している可能性が指摘できる。

問4. あなたは、現在の教育課題として、環境教育の優先度はどの程度だととらえていますか。次の中から、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。

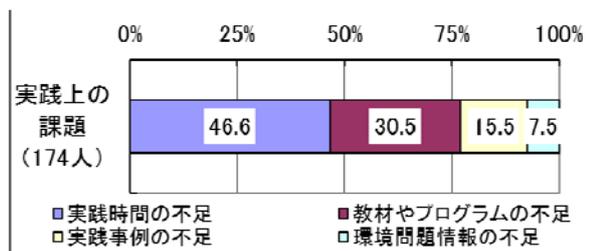


○環境教育の優先度のとらえ方は、小・中学校で似た傾向を示している。

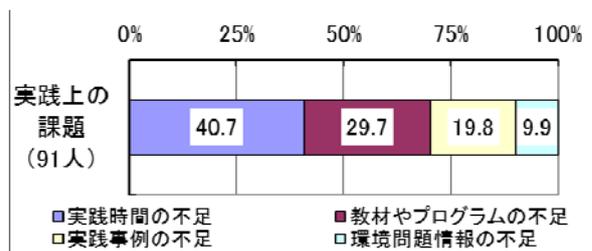
○「優先度は高い」という割合は、小学校約8%、中学校約10%で1割以下であるものの、「どちらかと言えば優先度は高い」を足した割合は、小学校約54%、中学校約56%で5割を超えている。

○近年の学校教育においては、学力低下、ゆとり教育批判、いじめ問題等に加え、道徳の教科化、小学校英語の導入などの課題が山積している情勢にあることから、環境教育の優先度は低いのではないかと想定していた。しかしながら、過半数が優先度は高いととらえていることは、環境教育は重要な教育課題と認識されているととらえることができる。

問5. あなたは、次の1～4のうち、環境教育の実践において最も大きな課題はどれだと思いますか。あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。



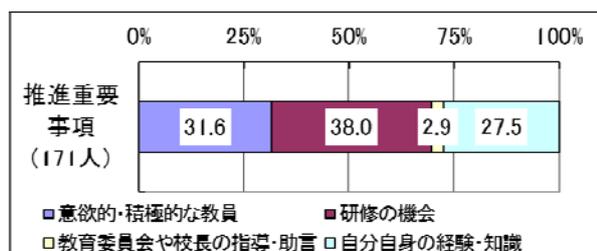
小学校



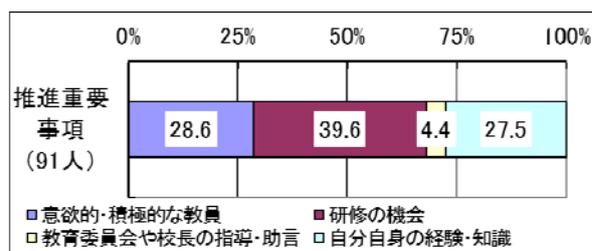
中学校

- 環境教育実践の課題に関しても、小・中学校で似た傾向を示している。
- 「実践時間の不足」が最も高い割合を示しているのは、過去の環境教育調査と類似の結果である。実践上の課題と言え、真っ先に時間不足が挙げられると言っても過言ではない。
- 次いで、「教材やプログラムの不足」が約30%、「実践事例に関する資料・情報の不足」が小学校約16%、中学校約20%となっているものの、「環境問題の資料・情報の不足」は相対的に低くなっている。
- 実践課題として約3割の小・中学校教員が「教材やプログラムの不足」を挙げていることからすれば、今後も適切な環境教育教材・プログラムの開発は重要であると考えられる。

問6. あなたは、次の1～4のうち、今後の環境教育の推進において最も重要なものはどれだと思いますか。あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。



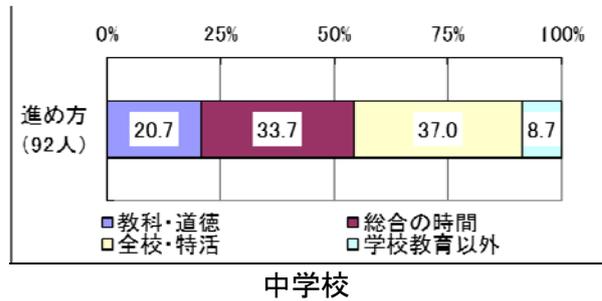
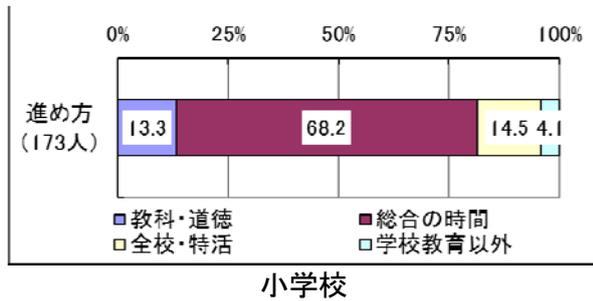
小学校



中学校

- 環境教育推進上の重要事項に関しても、小・中学校で似た傾向を示している。
- 小・中学校ともに最も割合の高いのは「研修の機会」で、小学校38%、中学校約40%と約4割が研修の重要性を挙げている。
- 「意欲的・積極的な教員」、「自分自身の経験・知識」との回答は、小・中学校ともに約3割である。
- 「自分自身の経験・知識」との回答は控えめな反応かもしれないが、経験・知識を補完するためにも研修が重要であると解するならば、教員研修の重要性が指摘できる。

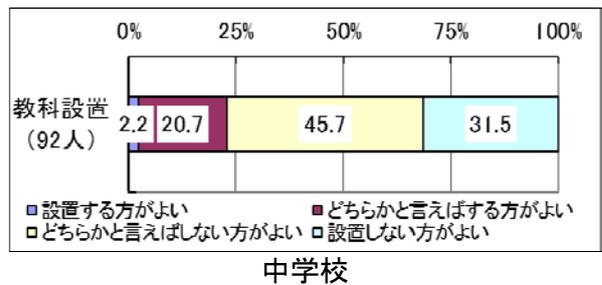
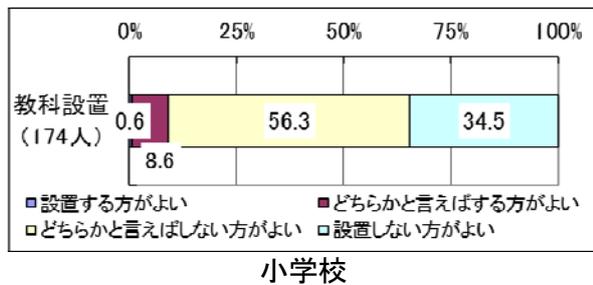
問7. あなたは、今後の環境教育の進め方について、どのようにお考えでしょうか。次の中から、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。



○今後の進め方に関しては、小学校と中学校で違いが見られ、カイ二乗検定の結果、有意差が認められた。

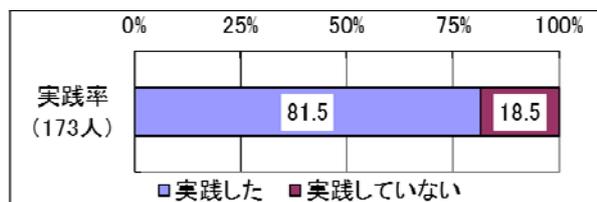
○小学校では「どちらかと言えば、総合的な学習の時間で実践する方がよい」との回答が7割弱であるのに対し、中学校では「どちらかと言えば、全校活動・特別活動で実践する方がよい」が37%で、「総合的な学習の時間」の約34%よりも高い。この結果からは、問3の「総合的な学習の時間」における環境教育実践の現状に対するとらえ方や、学校調査の間8（総合的な学習の時間で重視しているテーマ）の結果との関連性がうかがえる。

問8. あなたは、環境教育のための新しい教科（例えば「環境科」）の設置について、どのようにお考えでしょうか。次の中から、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。

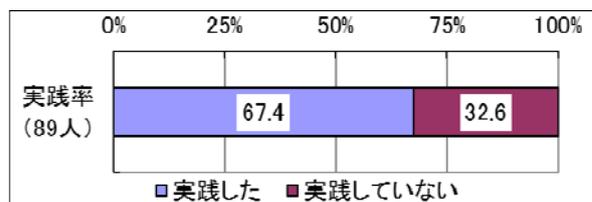


○「環境科」のような新教科の設置に関しては、中学校教員の方がやや肯定的ではあるものの、「設置しない方がよい」「どちらかと言えば設置しない方がよい」を足した否定的な層は、小学校約91%、中学校約77%と多くを占めている。

問9. あなたは、今年度（2014（平成26）年度）、環境教育に関係すると思われる学習指導を実践されましたか。該当するものを1つ選んでください。



小学校



中学校

〔担任学年（小学校）、担当教科（中学校）別の実践率〕

小学校	%	有効数
小1	36.4	11
小2	62.5	8
小3	84.9	33
小4	91.1	45
小5	94.3	35
小6	71.4	35
計		167人

中学校	%	有効数
国語	50.0	10
社会	89.5	19
数学	41.7	12
理科	86.7	15
保健体育	44.7	6
技術・家庭	100	7
英語	66.7	12
音美他	16.7	6
計		87人

- 環境教育実践率は、小学校約82%、中学校約67%となっており、概ね7～8割となっている。
- 小学校は担任学年別、中学校は担当教科別に実践率を算出した。小学校では、第3学年で約85%となり、第4、5学年が9割を超え、第6学年で約71%と若干低下する。中学校では、技術・家庭科が100%と最も高く、次いで社会科が約90%、理科が約87%とほぼ9割となっている。
- 小・中学校の環境教育実践率は、教科の学習内容が関係しているととらえられる。

問 10. 「1. 実践した」と回答された方だけにお尋ねします。今年度あなたが、比較的よく取り組んだ環境教育の学習指導を、次の〔学習内容〕と〔体験活動〕の中から、それぞれ3つ以内で選んでください。

〔学習内容〕

	小学校 (140 人) (%)	中学校 (58 人) (%)
自然の仕組みや成り立ちの学習	15.7	13.8
生命の尊さや自然の大切さの学習	36.4	13.8
地域の動植物や地形などの学習	15.0	19.0
地域の文化や生活習慣などの学習	15.7	15.5
地球的規模の環境問題の学習	20.0	41.4
地域や国内の環境問題の学習	19.3	25.9
資源、エネルギーに関する学習	32.9	53.4
食や農に関する学習	27.1	17.2
環境に配慮した生活の仕方の学習	42.1	27.6
まちづくりに関する学習	5.7	1.7
その他	3.6	1.7

※：マーカー及びゴシックは、それぞれの上位3項目。

〔体験活動〕

	小学校 (128 人) (%)	中学校 (47 人) (%)
地域の自然に親しむ活動	33.6	27.7
地域の伝統文化に親しむ活動	13.3	17.0
動植物の飼育栽培活動	40.6	12.8
ゴミの分別やリサイクル活動	41.4	55.3
地域の美化・清掃活動	29.7	46.8
空気や水の汚れを調べる活動	15.6	4.3
動植物の保護活動	2.3	0.0
伝統文化の保存・伝承活動	8.6	4.3
省エネルギー活動	12.5	21.3
環境に関連する施設の見学	18.0	2.1
その他	1.6	8.5

※：マーカー及びゴシックは、それぞれの上位3項目。

○実践者のみに対して尋ねた〔学習内容〕では、小学校の第1位は「環境に配慮した生活の仕方の学習」、中学校の第1は「資源、エネルギーに関する学習」である。〔体験活動〕の第1位は、小・中学校ともに「ゴミの分別やリサイクル活動」となっている。

○これら〔学習内容〕と〔体験活動〕の上位項目は、問2の学校における環境教育の指導内容として思い浮かぶ項目と関係していることがうかがえる。

○なお、本設問の選択肢は、東京学芸大学環境教育研究会（1999）を参考に作成した。

〔文献〕

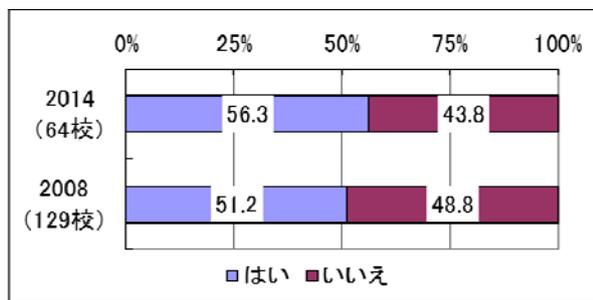
- 市川智史, 2007, 「小中学校の「総合的な学習の時間」における環境教育の傾向」, 『科学教育研究』, 31(2), 日本科学教育学会, pp.145-149.
- 市川智史, 2012, 「小中学校における環境教育推進方策、実践状況、教員意識の変化 —1995-96年度調査と2008年度調査の比較分析を通して—」, 『科学教育研究』, 36(2), 日本科学教育学会, pp.203-210.
- 市川智史, 2014, 「小・中学校の「総合的な学習の時間」における環境教育実践の状況と変化 —平成10年版学習指導要領時代の全国調査の比較・分析を通して—」, 『滋賀大学教育学部紀要 教育科学』, No. 63, pp.7-16.
- 高知大学環境教育研究会, 1997, 『学校教育における環境教育課題の整理と分析 調査報告 No.1 [小・中学校]』, 高知大学環境教育研究会, 194p.
- 文部科学省, 2008, 『小学校学習指導要領』, 東京書籍, 237p.
- 文部科学省, 2008, 『中学校学習指導要領』, 東山書房, 237p.
- 東京学芸大学環境教育研究会, 1999, 『平成10年度文部省委託調査報告書「環境教育の総合的推進に関する調査」報告書』, 東京学芸大学環境教育研究会.

【参考：2008年度（前回）調査との比較】

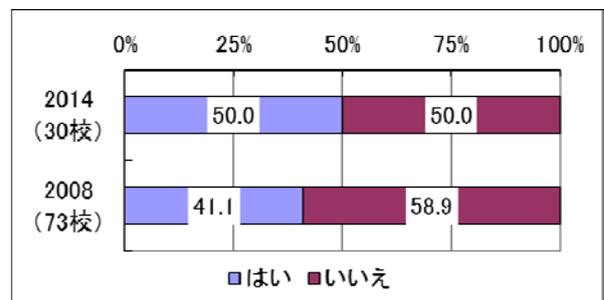
○参考資料として、同じ設問文・選択肢の問いについて、2008年度調査と比較した図表を記す。
 なお、比較しやすくするため、一部、選択肢の順序を入れ替えた表を作成した。

〔学校調査〕

問1. 貴校では、今年度の教育目標や重点目標などに、環境教育に関する内容が示されていますか。

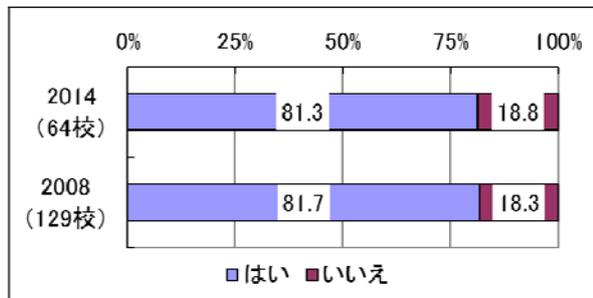


小学校

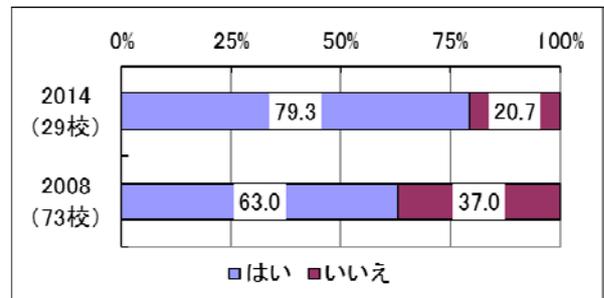


中学校

問3. 貴校では、校務分掌に環境教育担当を位置づけていますか。

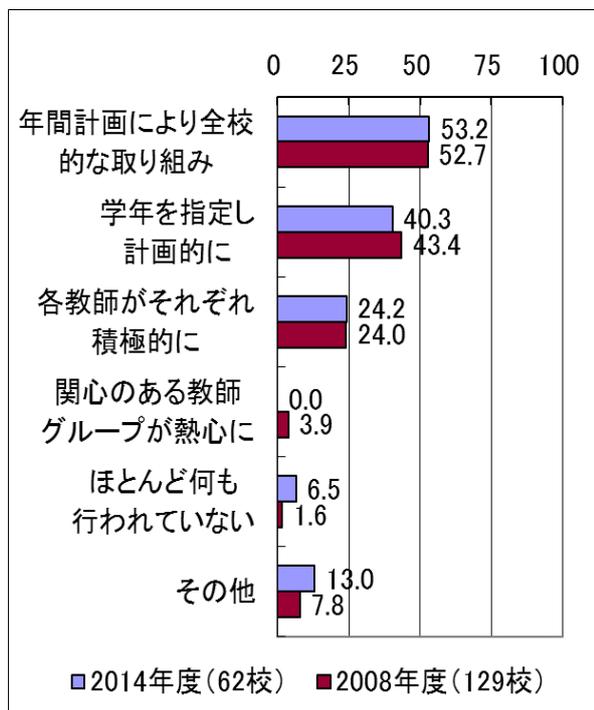


小学校

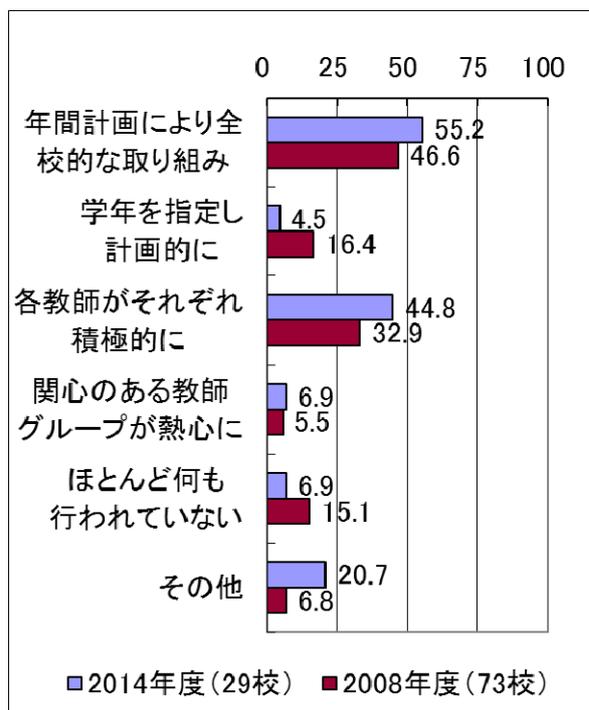


中学校

問6. 貴校における環境教育の実施状況をどのように捉えていますか。次のうち、該当するものをいくつでも選んで下さい。

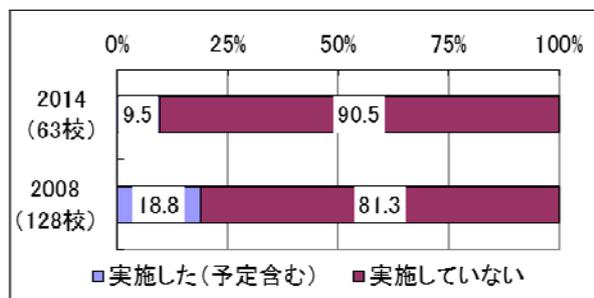


小学校

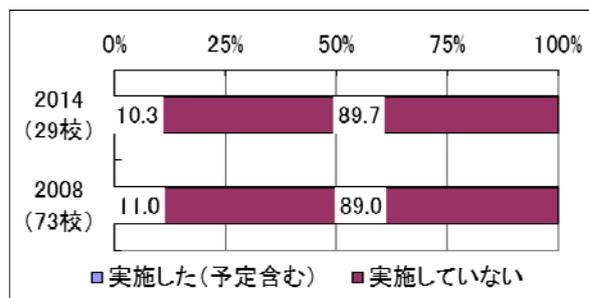


中学校

問7. 貴校では、昨年度と今年度に環境教育に関する校内研修を実施しましたか（実施予定も含む）。



小学校



中学校

問8. 貴校の「総合的な学習の時間」として、特に重視しているテーマを、以下の中から該当するものを3つ以内で選んでください。

〔小学校〕

	2014 (56校) (%)	2008 (123校) (%)	増減
地域 (郷土)	71.4	73.2	-1.8
環境	50.0	58.5	-8.5
福祉	48.2	41.5	6.7
国際理解	28.6	43.9	-15.3
情報	17.9	22.0	-4.1
生き方	17.9	12.2	5.7
人権	12.5	7.3	5.2
伝統文化	10.7	16.3	-5.6
進路	3.6	1.6	2.0
健康	0.0	4.9	-4.9
その他	3.6	6.5	-2.9

※：今回調査の順位で選択肢を並べ替えたもの（その他を除く）。

※：マーカー及びゴシックは、各調査の上位3項目と変化の大きかった3項目（増又は減）。

〔中学校〕

	2014 (26校) (%)	2008 (70校) (%)	増減
地域 (郷土)	50.0	52.9	-2.9
進路	50.0	48.6	1.4
生き方	46.2	37.1	9.1
福祉	42.3	45.7	-3.4
環境	19.2	25.7	-6.5
伝統文化	19.2	12.9	6.3
国際理解	15.4	21.4	-6.0
人権	11.5	15.7	-4.2
情報	3.9	7.1	-3.2
健康	3.9	4.3	-0.4
その他	7.7	7.1	0.6

※：今回調査の順位で選択肢を並べ替えたもの（その他を除く）。

※：マーカー及びゴシックは、各調査の上位3項目と変化の大きかった3項目（増又は減）。

問9. 貴校では、「総合的な学習の時間」においてどのような活動を重視していますか。以下の
中から特に重視しているものを2つ選んでください。

〔小学校〕

	2014 (54校) (%)	2008 (126校) (%)	増減
見学・調査・研究的活動	48.2	64.3	-16.1
報告書作成、発表や討論などの表現活動	38.9	33.3	5.6
自然体験	37.0	33.3	3.7
社会的活動（ボランティア）	27.8	23.8	4.0
観察・実験・実習	18.5	15.1	3.4
ものづくり・生産活動	14.8	22.2	-7.4
その他	7.4	4.8	2.6

※：今回調査の順位で選択肢を並べ替えたもの（その他を除く）。

※：マーカー及びゴチックは、各調査の上位3項目（同値含む）と変化の大きかった3項目（増又は減）。

〔中学校〕

	2014 (25校) (%)	2008 (70校) (%)	増減
見学・調査・研究的活動	60.0	68.6	-8.6
報告書作成、発表や討論などの表現活動	44.0	37.1	6.9
社会的活動（ボランティア）	36.0	41.4	-5.4
自然体験	24.0	22.9	1.1
観察・実験・実習	20.0	15.7	4.3
ものづくり・生産活動	4.0	1.4	2.6
その他	4.0	7.1	-3.1

※：今回調査の順位で選択肢を並べ替えたもの（その他を除く）。

※：マーカー及びゴチックは、各調査の上位3項目と変化の大きかった3項目（増又は減）。

問 10. 今年度（2014（平成 26）年度）、あなたの学校では「総合的な学習の時間」において、環境に関してどのような実践をされましたか。以下のうち、該当するものをいくつでも選んでください。（実践した学年にはこだわりません）

〔小学校〕

	2014 (62 校) (%)	2008 (128 校) (%)	増減
国内や地域の廃棄物（ゴミ）やリサイクルについての学習	56.5	52.3	4.2
動植物の飼育栽培や生産体験	53.2	64.1	-10.9
環境美化・清掃や分別回収などのボランティア体験	51.6	55.5	-3.9
校庭、公園、森、山などで動植物や自然に親しむ活動	51.6	47.7	3.9
川、池、海などで動植物や自然に親しむ活動	33.9	44.5	-10.6
生命の尊さや環境倫理についての学習	32.3	19.5	12.8
国内や地域の自然環境についての学習	32.3	37.5	-5.2
地域の開発やまちづくりについての学習	30.7	28.9	1.8
資源・エネルギー問題についての学習	27.4	24.2	3.2
地球的規模の環境問題についての学習	27.4	32.0	-4.6
国内や地域の大气や水の汚れについての学習	17.7	29.7	-12.0
その他	3.2	5.5	-2.3

※：今回調査の順位で選択肢を並べ替えたもの（その他を除く）。

※：マーカー及びゴチックは、各調査の上位 3 項目（同値含む）と変化の大きかった 3 項目（増又は減）。

〔中学校〕

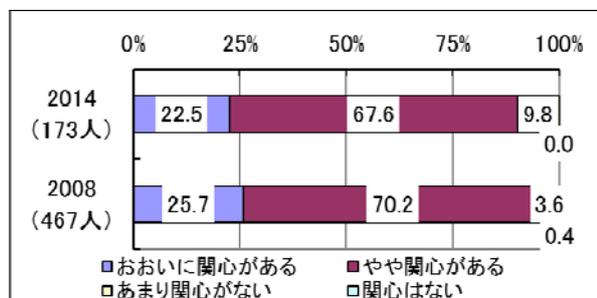
	2014 (27 校) (%)	2008 (69 校) (%)	増減
環境美化・清掃や分別回収などのボランティア体験	66.7	65.2	1.5
校庭、公園、森、山などで動植物や自然に親しむ活動	40.7	31.9	8.8
国内や地域の廃棄物（ゴミ）やリサイクルについての学習	22.2	31.9	-9.7
川、池、海などで動植物や自然に親しむ活動	22.2	18.8	3.4
国内や地域の自然環境についての学習	22.2	20.3	1.9
地域の開発やまちづくりについての学習	22.2	17.4	4.8
動植物の飼育栽培や生産体験	14.8	10.1	4.7
生命の尊さや環境倫理についての学習	7.4	20.3	-12.9
資源・エネルギー問題についての学習	11.1	13.0	-1.9
地球的規模の環境問題についての学習	11.1	23.2	-12.1
国内や地域の大气や水の汚れについての学習	7.4	7.3	0.1
その他	7.4	0.0	7.4

※：今回調査の順位で選択肢を並べ替えたもの（その他を除く）。

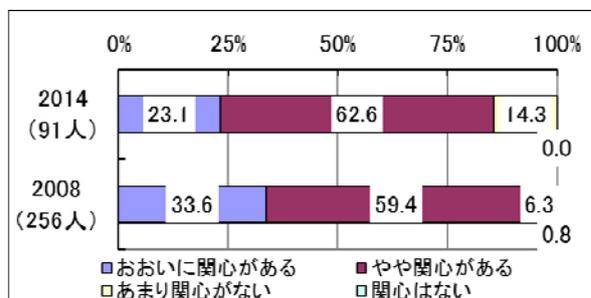
※：マーカー及びゴチックは、各調査の上位 3 項目（同値含む）と変化の大きかった 3 項目（増又は減）。

〔教員調査〕

問1. あなたは、環境教育に関心がありますか。次の中から、該当するものを1つ選んでください。



小学校



中学校

問2. 「学校における環境教育」と言われた時、思い浮かぶ指導内容はどのようなことですか。次の中から、まず思い浮かぶことがらを3つ以内で選んでください。

〔小学校〕

選択肢	2014 (173人) (%)	2008 (461人) (%)	増減
ゴミの分別やリサイクル活動	57.2	55.7	1.5
人間と環境の関わりの学習	35.3	37.7	-2.4
環境に配慮した生活の仕方の学習	33.5	38.4	-4.9
地球的規模の環境問題の学習	31.8	33.8	-2.0
資源、エネルギーに関する学習	25.4	20.6	4.8
地域や国内の環境問題の学習	22.5	16.7	5.8
自然とのふれあい活動	15.0	13.0	2.0
空気や水の汚れなどを調べる活動	13.3	13.7	-0.4
地域の美化・清掃活動	8.7	15.6	-6.9
自然の仕組みや成り立ちの学習	8.1	10.6	-2.5
動植物の飼育栽培活動	8.1	7.4	0.7
緑を増やす活動	8.1	8.9	-0.8
地域の動植物や地形などの学習	6.4	7.6	-1.2
地域の文化や生活習慣などの学習	5.2	2.8	2.4
環境に関連する施設の見学	4.6	5.4	-0.8
社会の仕組みや成り立ちの学習	2.3	1.3	1.0
標語や作文、ポスターの制作	1.2	1.5	-0.3
特に思い浮かぶものはない	0.0	0.0	0.0
その他	1.7	0.4	1.3

※：今回調査の順位で選択肢を並べ替えたもの（その他を除く）。

※：マーカー及びゴシックは、各調査の上位3項目と変化の大きかった3項目（増又は減）。

〔中学校〕

選択肢	2014 (92人) (%)	2008 (254人) (%)	増減
資源、エネルギーに関する学習	47.8	39.4	8.4
地球的規模の環境問題の学習	46.7	50.4	-3.7
ゴミの分別やリサイクル活動	34.8	44.5	-9.7
人間と環境の関わりの学習	31.5	32.7	-1.2
環境に配慮した生活の仕方の学習	29.4	30.3	-0.9
地域の美化・清掃活動	20.7	15.4	5.3
地域や国内の環境問題の学習	19.6	22.4	-2.8
自然体験や野外活動	12.0	12.2	-0.2
自然の仕組みや成り立ちの学習	9.8	8.7	1.1
飼育栽培や生産体験、緑化活動	9.8	5.9	3.9
地域の環境調査	7.6	7.9	-0.3
地域の文化や生活習慣などの学習	4.4	4.3	0.1
標語や作文、ポスターの制作	4.4	2.8	1.6
社会の仕組みや成り立ちの学習	3.3	2.8	0.5
地域の動植物や地形などの学習	2.2	4.7	-2.5
環境に関する政策や法律、条約などの学習	1.1	1.2	-0.1
環境に関連する施設の見学	1.1	5.9	-4.8
特に思い浮かぶものはない	1.1	0.4	0.7
その他	1.1	0.8	0.3

※：今回調査の順位で選択肢を並べ替えたもの（その他を除く）。

※：マーカー及びゴチックは、各調査の上位3項目と変化の大きかった3項目（増又は減）。

問9. あなたは、今年度（2014（平成26）年度）、環境教育に関係すると思われる学習指導を実践されましたか。該当するものを1つ選んでください。

〔担任学年（小学校）、担当教科（中学校）別の実践率〕（2008は推定実践率（実践＋実践予定））

小学校	2014		2008	
	%	有効数	%	有効数
小1	36.4	11	65.6	32
小2	62.5	8	66.6	42
小3	84.9	33	83.1	89
小4	91.1	45	96.9	99
小5	94.3	35	87.9	99
小6	71.4	35	88.6	79

中学校	2014		2008	
	%	有効数	%	有効数
国語	50.0	10	57.6	33
社会	89.5	19	88.9	27
数学	41.7	12	44.0	25
理科	86.7	15	87.5	64
保健体育	44.7	6	80.0	20
技術家庭	100	7	82.6	23
英語	66.7	12	66.6	36
音美他	16.7	6	72.3	18

参考：2008（平成 20）年改訂 小学校学習指導要領の環境教育関連内容

<p>社会 (3・4 学年)</p>	<p>1 目標 (1) 地域の産業や消費生活の様子、人々の健康な生活や良好な生活環境及び安全を守るための諸活動について理解できるようにし、地域社会の一員としての自覚をもつようにする。 (2) 地域の地理的環境、人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きについて理解できるようにし、地域社会に対する誇りと愛情を育てるようにする。</p> <p>2 内容 (3) 地域の人々の生活にとって必要な飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理について、次のことを見学、調査したり資料を活用したりして調べ、これらの対策や事業は地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを考えるようにする。</p> <p>ア 飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理と自分たちの生活や産業とのかかわり イ これらの対策や事業は計画的、協力的に進められていること。</p> <p>(4) 地域社会における災害及び事故の防止について、……</p> <p>(5) 地域の人々の生活について、……人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。 イ 地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事 ウ 地域の発展に尽くした先人の具体的事例</p>
	<p>3 内容の取扱い (3) 内容の(3)については、次のとおり取り扱うものとする。 ア 「飲料水、電気、ガス」については、それらの中から選択して取り上げ、節水や節電などの資源の有効な利用についても扱うこと。 イ 「廃棄物の処理」については、ごみ、下水のいずれかを選択して取り上げ、廃棄物を資源として活用していることについても扱うこと。</p> <p>(4) 内容の(4)の「災害」については、火災、風水害、地震などの中から選択して取り上げ、……。</p> <p>(5) 内容の(3)及び(4)にかかわって、地域の社会生活を営む上で大切な法やきまりについて扱うものとする。</p> <p>(6) 内容の(5)のウの「具体的事例」については、開発、教育、文化、産業などの地域の発展に尽くした先人の中から選択して取り上げるものとする。</p> <p>(7) 内容の(6)については、次のとおり取り扱うものとする。 ア ウについては、自然環境、伝統や文化などの地域の資源を保護・活用している地域を取り上げること。その際、伝統的な工業などの地場産業の盛んな地域を含めること。</p>
<p>社会 (5 学年)</p>	<p>1 目標 (1) 我が国の国土の様子、国土の環境と国民生活との関連について理解できるようにし、環境の保全や自然災害の防止の重要性について関心を深め、国土に対する愛情を育てるようにする。 (2) 我が国の産業の様子、産業と国民生活との関連について理解できるようにし、我が国の産業の発展や社会の情報化の進展に関心をもつようにする。</p>

	<p>2 内容</p> <p>(1) 我が国の国土の自然などの様子について、……調べ、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考えるようにする。</p> <p>イ 国土の地形や気候の概要、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活</p> <p>ウ 公害から国民の健康や生活環境を守ることの大切さ</p> <p>エ 国土の保全などのための森林資源の働き及び自然災害の防止</p> <p>(2) 我が国の農業や水産業について、……調べ、それらは国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかかわりをもって営まれていることを考えるようにする。</p>
	<p>3 内容の取扱い</p> <p>(1) 内容の(1)については、次のとおり取り扱うものとする。</p> <p>イ イの「自然条件から見て特色ある地域」については、事例地を選択して取り上げ、自然環境に適応しながら生活している人々の工夫を具体的に扱うこと。</p> <p>ウ ウについては、大気汚染、水質汚濁などの中から具体的事例を選択して取り上げること。</p> <p>エ エについては、我が国の国土保全等の観点から扱うようにし、森林資源の育成や保護に従事している人々の工夫や努力及び環境保全のための国民一人一人の協力の必要性に気付くよう配慮すること。</p>
理科	<p>目標</p> <p>自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。</p>
理科 (3学年)	<p>1 目標</p> <p>(2) 身近に見られる動物や植物、日なたと日陰の地面を比較しながら調べ、……生物を愛護する態度を育てるとともに、……生物と環境とのかかわり、太陽と地面の様子との関係についての見方や考え方を養う。</p> <p>2 内容</p> <p>B 生命・地球</p> <p>(2) 身近な自然の観察</p> <p>身の回りの生物の様子を調べ、生物とその周辺の環境との関係についての考えをもつことができるようにする。</p> <p>ア 生物は、色、形、大きさなどの姿が違うこと。</p> <p>イ 生物は、その周辺の環境とかかわって生きていること。</p>
	<p>3 内容の取扱い</p> <p>(2) 内容の「B生命・地球」の(1)については、次のとおり取り扱うものとする。</p> <p>ア ア及びイについては、飼育、栽培を通して行うこと。</p>
理科 (4学年)	<p>1 目標</p> <p>(2) 人の体のつくり、動物の活動や植物の成長、天気の様子、月や星の位置の変化を運動、季節、気温、時間など関係付けながら調べ、……生物を愛護する態度を育てるとともに、人の体のつくりと運動、動物の活動や植物の成長と環境とのかかわり、気象現象、月や星の動きについての見方や考え方を養う。</p> <p>2 内容</p> <p>B 生命・地球</p>

	<p>(2) 季節と生物 身近な動物や植物を探したり育てたりして、季節ごとの動物の活動や植物の成長を調べ、それらの活動や成長と環境とのかかわりについての考えをもつことができるようにする。</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(4) 内容の「B生命・地球」の(2)については、1年を通して動物の活動や植物の成長をそれぞれ2種類以上観察するものとする。</p>
理科 (5学年)	<p>1 目標</p> <p>(2) 植物の発芽から結実までの過程、動物の発生や成長、流水の様子、天気の変化を条件、時間、水量、自然災害などに目を向けながら調べ、……生命を尊重する態度を育てるとともに、生命の連続性、流水の働き、気象現象の規則性についての見方や考え方を養う。</p> <p>2 内容</p> <p>B 生命・地球</p> <p>(3) 流水の働き ……流れる水の働きと土地の変化の関係についての考えをもつことができるようにする。 ウ 雨の降り方によって、……増水により土地の様子が大きく変化する場合があること。</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(4) 内容の「B生命・地球」の(4)のイについては、台風の進路による天気の変化や台風と降雨との関係についても触れるものとする。</p>
理科 (6学年)	<p>1 目標</p> <p>(2) 生物の体のつくりと働き、生物と環境、土地のつくりと変化の様子、……生命を尊重する態度を育てるとともに、生物の体の働き、生物と環境とのかかわり、土地のつくりと変化のきまり、月の位置や特徴についての見方や考え方を養う。</p> <p>2 内容</p> <p>B 生命・地球</p> <p>(3) 生物と環境 動物や植物の生活を観察したり、資料を活用したりして調べ、生物と環境とのかかわりについての考えをもつことができるようにする。 ア 生物は、水及び空気を通して周囲の環境とかがわって生きていること。 イ 生物の間には、食う食われるという関係があること。</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(3) 内容の「B生命・地球」の(3)のアについては、水が循環していることにも触れるものとする。</p>
理科	<p>第3 指導計画の作成と各学年にわたる内容の取扱い</p> <p>2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(2) 生物、天気、川、土地などの指導については、野外に出掛け地域の自然に親しむ活動や体験的な活動を多く取り入れるとともに、自然環境を大切に、その保全に寄与しようとする態度を育成するようにすること。</p>

生活	<p>第1 目標</p> <p>具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。</p>
生活 (1・2学年)	<p>1 目標</p> <p>(2) 自分と身近な動物や植物などの自然とのかかわりに関心を持ち、自然のすばらしさに気付き、自然を大切にしたり、自分たちの遊びや生活を工夫したりすることができるようにする。</p> <p>(3) 身近な人々、社会及び自然とのかかわりを深めることを通して、自分のよさや可能性に気付き、意欲と自信をもって生活することができるようにする。</p> <p>(4) 身近な人々、社会及び自然に関する活動の楽しさを味わうとともに、……。</p> <p>2 内容</p> <p>(5) 身近な自然を観察したり、……四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに気付き、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできるようにする。</p> <p>(6) 身近な自然を利用したり身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気付き、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。</p> <p>(7) 動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気付き、生き物への親しみをもち、大切にすることができるようにする。</p> <p>第3 指導計画の作成と各学年にわたる内容の取扱い</p> <p>(1) 自分と地域の人々、社会及び自然とのかかわりが具体的に把握できるような学習活動を行うこととし、校外での活動を積極的に取り入れること。</p> <p>(2) 第2の内容の(7)については、2学年にわたって取り扱うものとし、動物や植物へのかかわり方が深まるよう継続的な飼育、栽培を行うようにすること。</p>
家庭 (5・6学年)	<p>2 内容</p> <p>D 身近な消費生活と環境</p> <p>(2) 環境に配慮した生活の工夫について、次の事項を指導する。</p> <p>ア 自分の生活と身近な環境とのかかわりに気付き、物の使い方などを工夫できること。</p>
体育 (3・4学年)	<p>2 内容</p> <p>G 保健</p> <p>(1) 健康の大切さを認識するとともに、健康によい生活について理解できるようにする。</p> <p>ア 心や体の調子がよいなどの健康の状態は、主体の要因や周囲の環境の要因がかかわっていること。</p> <p>ウ 毎日を健康に過ごすには、明るさの調節、換気などの生活環境を整えることなどが必要であること。</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(3) 内容の「G保健」については、(1)を第3学年、(2)を第4学年で指導するものとする。</p> <p>(4) 内容の「G保健」の(1)については、学校でも、健康診断や学校給食など様々な活動が行われていることについて触れるものとする。</p>

<p>道徳</p>	<p>第2 内容 (1・2学年) 3 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること。 (1) 生きることを喜び、生命を大切にすることをもち。 (2) 身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する。</p> <p>(3・4学年) 3 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること。 (1) 生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする。 (2) 自然のすばらしさや不思議さに感動し、自然や動植物を大切にする。</p> <p>(5・6学年) 3 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること。 (1) 生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。 (2) 自然の偉大さを知り、自然環境を大切にする。</p>
<p>総合的な学習の時間</p>	<p>第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (5) 学習活動については、学校の実態に応じて、例えば国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動、児童の興味・関心に基づく課題についての学習活動、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題についての学習活動などを行うこと。</p> <p>2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。 (3) 自然体験やボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動などの体験活動、観察・実験、見学や調査、発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れること。 (4) 体験活動については、第1の目標並びに第2の各学校において定める目標及び内容を踏まえ、問題の解決や探究活動の過程に適切に位置付けること。</p>

※：文部科学省，2008，『小学校学習指導要領』（東京書籍）より筆者作成。

参考：2008（平成20）年改訂 中学校学習指導要領の環境教育関連内容

<p>社会 〔地理的分野〕</p>	<p>1 目標 (2) 日本や世界の地域の諸事象を位置や空間的な広がりとかかわりでもとらえ、それを地域の規模に応じて環境条件や人間の営みなどと関連付けて考察し、地域的特色や地域の課題をとらえさせる。</p> <p>2 内容 (2) 日本の様々な地域 イ 世界と比べた日本の地域的特色 (ア) 自然環境 世界的視野から日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色を理解させるとともに、国内の地形や気候の特色、自然災害と防災への努力を取り上げ、日本の自然環境に関する特色を大観させる。 (ウ) 資源・エネルギーと産業 世界的視野から日本の資源・エネルギーの消費の現状を理解させるとともに、国内の産業の動向、環境やエネルギーに関する課題を取り上げ、日本の資源・エネルギーと産業に関する特色を大観させる。 ウ 日本の諸地域 (エ) 環境問題や環境保全を中核とした考察 地域の環境問題や環境保全の取組を中核として、それを産業や地域開発の動向、人々の生活などと関連付け、持続可能な社会の構築のためには地域における環境保全の取組が大切であることなどについて考える。</p>
<p>社会 〔公民的分野〕</p>	<p>2 内容 (2) 私たちと経済 イ 国民の生活と政府の役割 国民の生活と福祉の向上を図るために、社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、社会保障の充実、消費者の保護など、市場の働きにゆだねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たしている役割について考えさせる。……。 (4) 私たちと国際社会の諸課題 ア 世界平和と人類の福祉の増大 ……また、地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを理解させる。 イ よりよい社会を目指して 持続可能な社会を形成するという観点から、私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を探求させ、自分の考えをまとめさせる。</p> <p>3 内容の取扱い (5) 内容の(4)については、次のとおり取り扱うものとする。 イ イについては、次のとおり取り扱うものとする。 (ア) 身近な地域の生活や我が国の取組との関連性に着目させ、世界的な視野と地域的な視野に立って探求させること。 (イ) イについては、社会科のまとめとして位置付け、適切かつ十分な授業時数を配当すること。</p>
<p>理科 〔第1分野〕</p>	<p>1 目標 (1) 物質やエネルギーに関する事物・現象に進んでかかわり、……。 (4) 物質やエネルギーに関する事物・現象を調べる活動を行い、これらの活動を通して科学技術の発展と人間生活とのかかわりについて認識を深め、科学的に考える態度を養うとともに、自然を総合的に見るができるようにする。</p> <p>2 内容 (7) 科学技術と人間 エネルギー資源の利用や科学技術の発展と人間生活とのかかわりについて認識を深め、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察し</p>

	<p>判断する態度を養う。</p> <p>ア エネルギー</p> <p>(ア) 様々なエネルギーとその変換 エネルギーに関する観察、実験を通して、日常生活や社会では様々なエネルギーの変換を利用していることを理解すること。</p> <p>(イ) エネルギー資源 人間は、水力、火力、原子力などからエネルギーを得ていることを知るとともに、エネルギーの有効な利用が大切であることを認識すること。</p> <p>ウ 自然環境の保全と科学技術の利用</p> <p>(ア) 自然環境の保全と科学技術の利用 自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察し、持続可能な社会をつくることが重要であることを認識すること。</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(8) 内容の(7)については、次のとおり取り扱うものとする。</p> <p>イ アの(イ)については、放射線の性質と利用にも触れること。</p> <p>ウ ウの(ア)については、これまでの第1分野と第2分野の学習を生かし、第2分野(7)のウの(ア)と関連付けて総合的に扱うこと。</p>
<p>理科 〔第2分野〕</p>	<p>1 目標</p> <p>(4) 生物とそれらを取り巻く自然の事物・現象を調べる活動を行い、これらの活動を通して生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を育て、自然を総合的に見るができるようにする。</p> <p>2 内容</p> <p>(7) 自然と人間 自然環境を調べ、自然界における生物相互の関係や自然界のつり合いについて理解させるとともに、自然と人間のかかわり方について認識を深め、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察し判断する態度を養う。</p> <p>ア 生物と環境</p> <p>(ア) 自然界のつり合い 微生物の働きを調べ、植物、動物及び微生物を栄養の面から相互に関連付けてとらえるととともに、自然界では、これらの生物がつり合いを保って生活していることを見いだすこと。</p> <p>(イ) 自然環境の調査と環境保全 身近な自然環境について調べ、様々な要因が自然界のつり合いに影響していることを理解するとともに、自然環境を保全することの重要性を認識すること。</p> <p>イ 自然の恵みと災害</p> <p>(ア) 自然の恵みと災害 自然がもたらす恵みと災害などについて調べ、これらを多面的、総合的にとらえて、自然と人間のかかわり方について考察すること。</p> <p>ウ 自然環境の保全と科学技術の利用</p> <p>(ア) 自然環境の保全と科学技術の利用 自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察し、持続可能な社会をつくることが重要であることを認識すること。</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(8) 内容の(7)については、次のとおり取り扱うものとする。</p> <p>ア アの(ア)については、生態系における生産者、消費者及び分解者の関連を扱うこと。その際、土壌動物にも触れること。</p> <p>イ アの(イ)については、生物や大気、水などの自然環境を直接調べたり、記録や資料を基に調べたりするなどの活動を行うこと。また、地球温暖化や外来種にも触れること。</p> <p>ウ イの(ア)については、地球規模でのプレートの動きも扱うこと。また「災</p>

	害」については、記録や資料などを用いて調べ、地域の災害について触れること。 エ ウの(ア)については、これまでの第1分野と第2分野の学習を生かし、第1分野(7)のウの(ア)と関連付けて総合的に扱うこと。
理科	第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2 各分野の内容の指導については、次の事項に配慮するものとする。 (2) 生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が育成されるようにすること。
保健体育 〔保健分野〕	2 内容 (2) 健康と環境について理解できるようにする。 ア 身体には、環境に対してある程度まで適応能力があること。身体の適応能力を超えた環境は、健康に影響を及ぼすことがあること。また、快適で能率のよい生活を送るための温度、湿度や明るさには一定の範囲があること。 イ 飲料水や空気は、健康と密接なかわりがあること。また、飲料水や空気を衛生的に保つには、基準に適合するよう管理する必要があること。 ウ 人間の生活によって生じた廃棄物は、環境の保全に十分配慮し、環境を汚染しないように衛生的に処理する必要があること。 3 内容の取扱い (5) 内容の(2)については、地域の実態に即して公害と健康との関係を取り扱うことも配慮するものとする。また、生態系については、取り扱わないものとする。
技術・家庭 〔技術分野〕	1 目標 ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。 2 内容 A 材料と加工に関する技術 (1) 生活や産業の中で利用されている技術について、次の事項を指導する。 イ 技術の進展と環境との関係について考えること。 C 生物育成に関する技術 (1) 生物の育成環境と育成技術について、次の事項を指導する。 ア 生物の育成に適する条件と生物の育成環境を管理する方法を知ること。 イ 生物育成に関する技術の適切な評価・活用について考えること。 (2) 生物育成に関する技術を利用した栽培又は飼育について、次の事項を指導する。 ア 目的とする生物の育成計画を立て、生物の栽培又は飼育ができること。 3 内容の取扱い (1) 内容の「A材料と加工に関する技術」の(1)については、技術の進展が資源やエネルギーの有効利用、自然環境の保全に貢献していることや、ものづくりの技術が我が国の伝統や文化を支えてきたことについても扱うものとする。
技術・家庭 〔家庭分野〕	2 内容 B 食生活と自立 (3) 日常食の調理と地域の食文化について、次の事項を指導する。 イ 地域の食材を生かすなどの調理を通して、地域の食文化について理解すること。 ウ 食生活に関心をもち、課題をもって日常食又は地域の食材を生かした調理などの活動について工夫し、計画を立てて実践できること。 D 身近な消費生活と環境

	<p>(2) 家庭生活と環境について、次の事項を指導する。</p> <p>ア 自分や家族の消費生活が環境に与える影響について考え、環境に配慮した消費生活について工夫し、実践できること。</p>
技術・家庭	<p>第3 指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>[家庭分野の「A家族・家庭と子どもの成長」の(3)のエ、「B食生活と自立」の(3)のウ及び「C衣生活・住生活と自立」の(3)のイについては、これら3事項のうち1又は2事項を選択して履修させることと記されているが、技術分野と家庭分野にまたがる選択制はなくなった。]</p>
道徳	<p>第2 内容</p> <p>3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること。</p> <p>(1) 生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。</p> <p>(2) 自然を愛護し、美しいものに感動する豊かな心を持ち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める。</p> <p>(3) 人間には弱さや醜さを克服する気高さがあることを信じて、人間として生きることに喜びを見いだすように努める。</p>
総合的な学習の時間	<p>第3 指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(5) 学習活動については、学校の実態に応じて、例えば国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動、生徒の興味・関心に基づく課題についての学習活動、地域や学校の特色に応じた課題についての学習活動、職業や自己の将来に関する学習活動などを行うこと。</p> <p>2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(3) 自然体験や職場体験活動、ボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動などの体験活動、観察・実験、見学や調査、発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れること。</p> <p>(4) 体験活動については、第1の目標並びに第2の各学校において定める目標及び内容を踏まえ、問題の解決や探究活動の過程に適切に位置付けること。</p>

※：文部科学省，2008，『中学校学習指導要領』（東山書房）より筆者作成。

【小学校調査】

問1. 貴校では、今年度の教育目標や重点目標などに、環境教育に関する内容が示されていますか。
(有効数：64)

1. はい (36) 2. いいえ (28)

問2. 貴校には、環境教育の学校全体計画はありますか。(有効数：63)

1. ある (40) 2. ない (23)

問3. 貴校では、校務分掌に環境教育担当を位置づけていますか。(有効数：64)

1. はい (52) 2. いいえ (12)

問4. 貴校には、児童会に環境委員会などの環境に関する組織はありますか。(有効数：64)

1. ある (40) 2. ない (24)

問5. 貴校には、地域やPTAと連携した環境委員会などの環境に関する組織はありますか。(有効数：62)

1. ある (17) 2. ない (45)

問6. 貴校における環境教育の実施状況をどのように捉えていますか。次のうち、該当するものをいくつでも選んで下さい。(M.A. 有効数：62)

1. 年間計画により全校的な取り組みを行っている。(33)
2. 学年を指定し計画的に行っている。(25)
3. 各教師がそれぞれ積極的に行っている。(10)
4. 環境教育に関心のある教師グループが熱心に行っている。(0)
5. ほとんど何も行われていない。(4)
6. その他 (8)

問7. 貴校では、昨年度と今年度に環境教育に関する校内研修を実施しましたか(実施予定も含む)。
(有効数：63)

1. 実施していない (57) 2. 実施した(実施予定も含む) (6)

※：以下の設問は「総合的な学習の時間」に関してお答え下さい。

問8. 貴校の「総合的な学習の時間」として、特に重視しているテーマを、以下の中から該当するものを3つ以内で選んでください。(3M.A. 有効数：56)

- | | | | |
|--------------|-----------------|-------------|------------|
| 1. 国際理解 (16) | 2. 情報 (10) | 3. 環境 (28) | 4. 福祉 (27) |
| 5. 健康 (0) | 6. 地域 (郷土) (40) | 7. 伝統文化 (6) | 8. 人権 (7) |
| 9. 生き方 (10) | 10. 進路 (2) | 11. その他 (2) | |

問9. 貴校では、「総合的な学習の時間」においてどのような活動を重視していますか。以下の中から特に重視しているものを2つ選んでください。(2M.A. 有効数: 54)

- | | |
|-------------------|----------------------------|
| 1. 自然体験 (20) | 2. 社会的活動 (ボランティア) (15) |
| 3. 観察・実験・実習 (10) | 4. 見学・調査・研究的活動 (26) |
| 5. ものづくり・生産活動 (8) | 6. 報告書作成、発表や討論などの表現活動 (21) |
| 7. その他 (4) | |

問10. 今年度(2014(平成26)年度)、あなたの学校では「総合的な学習の時間」において、環境に関してどのような実践をされましたか。以下のうち、該当するものをいくつでも選んでください。(実践した学年にはこだわりません)(M.A. 有効数: 62)

- 1 校庭、公園、森、山などで動植物や自然に親しむ活動 (32)
- 2 川、池、海などで動植物や自然に親しむ活動 (21)
- 3 動植物の飼育栽培や生産体験 (33)
- 4 環境美化・清掃や分別回収などのボランティア体験 (32)
- 5 生命の尊さや環境倫理についての学習 (20)
- 6 資源・エネルギー問題についての学習 (17)
- 7 地域の開発やまちづくりについての学習 (19)
- 8 地球的規模の環境問題についての学習 (17)
- 9 国内や地域の自然環境についての学習 (20)
- 10 国内や地域の大気や水の汚れについての学習 (11)
- 11 国内や地域の廃棄物(ゴミ)やリサイクルについての学習 (35)
- 12 その他 (2)

問11. 今年度(2014(平成26)年度)、「総合的な学習の時間」の環境に関する学習として、貴校が実践された学習内容・テーマについて、記入例を参考に簡単にお教え下さい。(自由記述)

【中学校調査】

問1. 貴校では、今年度の教育目標や重点目標などに、環境教育に関する内容が示されていますか。
(有効数：30)

1. はい (15) 2. いいえ (15)

問2. 貴校には、環境教育の学校全体計画はありますか。(有効数：30)

1. ある (19) 2. ない (11)

問3. 貴校では、校務分掌に環境教育担当を位置づけていますか。(有効数：29)

1. はい (23) 2. いいえ (6)

問4. 貴校には、生徒会に環境委員会などの環境に関する組織はありますか。(有効数：29)

1. ある (23) 2. ない (6)

問5. 貴校には、地域やPTAと連携した環境委員会などの環境に関する組織はありますか。(有効数：29)

1. ある (15) 2. ない (14)

問6. 貴校における環境教育の実施状況をどのように捉えていますか。次のうち、該当するものをいくつでも選んで下さい。(M.A. 有効数：29)

1. 年間計画により全校的な取り組みを行っている。(16)
2. 学年を指定し計画的に行っている。(1)
3. 各教師がそれぞれ積極的に行っている。(13)
4. 環境教育に関心のある教師グループが熱心に行っている。(2)
5. ほとんど何も行われていない。(2)
6. その他 (6)

問7. 貴校では、昨年度と今年度に環境教育に関する校内研修を実施しましたか(実施予定も含む)。
(有効数：29)

1. 実施していない (26) 2. 実施した(実施予定も含む) (3)

※：以下の設問は「総合的な学習の時間」に関してお答え下さい。

問8. 貴校の「総合的な学習の時間」として、特に重視しているテーマを、以下の中から該当するものを3つ以内で選んでください。(3M.A. 有効数：26)

- | | | | |
|-------------|-----------------|-------------|------------|
| 1. 国際理解 (4) | 2. 情報 (1) | 3. 環境 (5) | 4. 福祉 (11) |
| 5. 健康 (1) | 6. 地域 (郷土) (13) | 7. 伝統文化 (5) | 8. 人権 (3) |
| 9. 生き方 (12) | 10. 進路 (13) | 11. その他 (2) | |

問9. 貴校では、「総合的な学習の時間」においてどのような活動を重視していますか。以下の中から特に重視しているものを2つ選んでください。(2M.A. 有効数:25)

- | | |
|-------------------|----------------------------|
| 1. 自然体験 (6) | 2. 社会的活動 (ボランティア) (9) |
| 3. 観察・実験・実習 (5) | 4. 見学・調査・研究的活動 (15) |
| 5. ものづくり・生産活動 (1) | 6. 報告書作成、発表や討論などの表現活動 (11) |
| 7. その他 (1) | |

問10. 今年度(2014(平成26)年度)、あなたの学校では「総合的な学習の時間」において、環境に関してどのような実践をされましたか。以下のうち、該当するものをいくつでも選んでください。(実践した学年にはこだわりません)(M.A. 有効数:27)

- 1 校庭、公園、森、山などで動植物や自然に親しむ活動 (11)
- 2 川、池、海などで動植物や自然に親しむ活動 (6)
- 3 動植物の飼育栽培や生産体験 (4)
- 4 環境美化・清掃や分別回収などのボランティア体験 (18)
- 5 生命の尊さや環境倫理についての学習 (2)
- 6 資源・エネルギー問題についての学習 (3)
- 7 地域の開発やまちづくりについての学習 (6)
- 8 地球的規模の環境問題についての学習 (3)
- 9 国内や地域の自然環境についての学習 (6)
- 10 国内や地域の空気や水の汚れについての学習 (2)
- 11 国内や地域の廃棄物(ゴミ)やリサイクルについての学習 (6)
- 12 その他 (2)

問11. 今年度(2014(平成26)年度)、「総合的な学習の時間」の環境に関する学習として、貴校が実践された学習内容・テーマについて、記入例を参考に簡単にお教え下さい。(自由記述)

【小学校 教員調査】

問1. あなたは、環境教育に関心がありますか。次の中から、該当するものを1つ選んでください。
(有効数：173)

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1. おおいに関心がある (39) | 2. やや関心がある (117) |
| 3. あまり関心がない (17) | 4. 関心はない (0) |

問2. 「学校における環境教育」と言われた時、思い浮かぶ指導内容はどのようなことですか。次の中から、まず思い浮かぶことがらを3つ以内で選んでください。(3M. A. 有効数：173)

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 1. 自然の仕組みや成り立ちの学習 (14) | 2. 社会の仕組みや成り立ちの学習 (4) |
| 3. 地域の動植物や地形などの学習 (11) | 4. 地域の文化や生活習慣などの学習 (9) |
| 5. 地球的規模の環境問題の学習 (55) | 6. 地域や国内の環境問題の学習 (39) |
| 7. 人間と環境の関わりの学習 (61) | 8. 資源、エネルギーに関する学習 (44) |
| 9. 環境に配慮した生活の仕方の学習 (58) | 10. 自然とのふれあい活動 (26) |
| 11. 緑を増やす活動 (14) | 12. 動植物の飼育栽培活動 (14) |
| 13. ゴミの分別やリサイクル活動 (99) | 14. 地域の美化・清掃活動 (15) |
| 15. 空気や水の汚れなどを調べる活動 (23) | 16. 標語や作文、ポスターの制作 (2) |
| 17. 環境に関連する施設の見学 (8) | 18. 特に思い浮かぶものはない (0) |
| 19. その他 (3) | |

問3. あなたは、「総合的な学習の時間」の環境教育実践の現状について、どのようにとらえていますか。次の中から、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。(有効数：173)

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1. 実践は十分である (11) | 2. どちらかと言えば十分である (69) |
| 3. どちらかと言えば不十分である (82) | 4. 実践は不十分である (11) |

問4. あなたは、現在の教育課題として、環境教育の優先度はどの程度だととらえていますか。次の中から、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。(有効数：174)

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1. 優先度は高い (14) | 2. どちらかと言えば優先度は高い (80) |
| 3. どちらかと言えば優先度は低い (73) | 4. 優先度は低い (7) |

問5. あなたは、次の1～4のうち、環境教育の実践において最も大きな課題はどれだと思いますか。あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。(有効数：174)

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| 1. 実践時間の不足 (81) | 2. 教材やプログラムの不足 (53) |
| 3. 実践事例に関する資料・情報の不足 (27) | 4. 環境問題の資料・情報の不足 (13) |

問6. あなたは、次の1～4のうち、今後の環境教育の推進において最も重要なものはどれだと思いますか。あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。(有効数：171)

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1. 意欲的・積極的な教員 (54) | 2. 研修の機会 (65) |
| 3. 教育委員会や校長の指導・助言 (5) | 4. 自分自身の経験・知識 (47) |

問7. あなたは、今後の環境教育の進め方について、どのようにお考えでしょうか。次の中から、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。(有効数：173)

1. どちらかと言えば、教科・道徳で実践する方がよい (23)
2. どちらかと言えば、総合的な学習の時間で実践する方がよい (118)
3. どちらかと言えば、全校活動・特別活動で実践する方がよい (25)
4. どちらかと言えば、学校教育以外の教育・学習の場で実践する方がよい (7)

問8. あなたは、環境教育のための新しい教科(例えば「環境科」)の設置について、どのようにお考えでしょうか。次の中から、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。(有効数：174)

- | | |
|---------------------------|--------------------------|
| 1. 設置する方がよい (1) | 2. どちらかと言えば設置する方がよい (15) |
| 3. どちらかと言えば設置しない方がよい (98) | 4. 設置しない方がよい (60) |

問9. あなたは、今年度(2014(平成26)年度)、環境教育に関係すると思われる学習指導を実践されましたか。該当するものを1つ選んでください。(有効数：173)

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1. 実践した (141) | 2. 実践していない (32) |
|---------------|-----------------|

問10. 「1. 実践した」と回答された方だけにお尋ねします。今年度あなたが、比較的良好に取り組んだ環境教育の学習指導を、次の〔学習内容〕と〔体験活動〕の中から、それぞれ3つ以内で選んでください。また、実践した教科等、単元(教科書教材)をお教え下さい。

問10-1. 〔学習内容〕(3つ以内) (3M. A. 有効数：140)

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1. 自然の仕組みや成り立ちの学習 (22) | 2. 生命の尊さや自然の大切さの学習 (51) |
| 3. 地域の動植物や地形などの学習 (21) | 4. 地域の文化や生活習慣などの学習 (22) |
| 5. 地球的規模の環境問題の学習 (28) | 6. 地域や国内の環境問題の学習 (27) |
| 7. 資源、エネルギーに関する学習 (46) | 8. 食や農に関する学習 (38) |
| 9. 環境に配慮した生活の仕方の学習 (59) | 10. まちづくりに関する学習 (8) |
| 11. その他 (5) | |

問10-2. 〔体験活動〕(3つ以内) (3M. A. 有効数：128)

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 1. 地域の自然に親しむ活動 (43) | 2. 地域の伝統文化に親しむ活動 (17) |
| 3. 動植物の飼育栽培活動 (52) | 4. ゴミの分別やリサイクル活動 (53) |
| 5. 地域の美化・清掃活動 (38) | 6. 空気や水の汚れを調べる活動 (20) |
| 7. 動植物の保護活動 (3) | 8. 伝統文化の保存・伝承活動 (11) |
| 9. 省エネルギー活動 (16) | 10. 環境に関連する施設の見学 (23) |
| 11. その他 (2) | |

【中学校 教員調査】

問1. あなたは、環境教育に関心がありますか。次の中から、該当するものを1つ選んでください。
(有効数：91)

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. おおいに関心がある (21) | 2. やや関心がある (57) |
| 3. あまり関心がない (13) | 4. 関心はない (0) |

問2. 「学校における環境教育」と言われた時、思い浮かぶ指導内容はどのようなことですか。次の中から、まず思い浮かぶことがらを3つ以内で選んでください。(3M. A. 有効数：92)

- | | |
|-------------------------|-----------------------------|
| 1. 自然の仕組みや成り立ちの学習 (9) | 2. 社会の仕組みや成り立ちの学習 (3) |
| 3. 地域の動植物や地形などの学習 (2) | 4. 地域の文化や生活習慣などの学習 (4) |
| 5. 地球的規模の環境問題の学習 (43) | 6. 地域や国内の環境問題の学習 (18) |
| 7. 人間と環境の関わりの学習 (29) | 8. 資源、エネルギーに関する学習 (44) |
| 9. 環境に配慮した生活の仕方の学習 (27) | 10. 環境に関する政策や法律、条約などの学習 (1) |
| 11. 自然体験や野外活動 (11) | 12. 飼育栽培や生産体験、緑化活動 (9) |
| 13. ゴミの分別やリサイクル活動 (32) | 14. 地域の美化・清掃活動 (19) |
| 15. 地域の環境調査 (7) | 16. 標語や作文、ポスターの制作 (4) |
| 17. 環境に関連する施設の見学 (1) | 18. 特に思い浮かぶものはない (1) |
| 19. その他 (1) | |

問3. あなたは、「総合的な学習の時間」の環境教育実践の現状について、どのようにとらえていますか。次の中から、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。(有効数：92)

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1. 実践は十分である (5) | 2. どちらかと言えば十分である (18) |
| 3. どちらかと言えば不十分である (53) | 4. 実践は不十分である (16) |

問4. あなたは、現在の教育課題として、環境教育の優先度はどの程度だととらえていますか。次の中から、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。(有効数：92)

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1. 優先度は高い (9) | 2. どちらかと言えば優先度は高い (42) |
| 3. どちらかと言えば優先度は低い (35) | 4. 優先度は低い (6) |

問5. あなたは、次の1～4のうち、環境教育の実践において最も大きな課題はどれだと思いますか。あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。(有効数：91)

- | | |
|--------------------------|----------------------|
| 1. 実践時間の不足 (37) | 2. 教材やプログラムの不足 (27) |
| 3. 実践事例に関する資料・情報の不足 (18) | 4. 環境問題の資料・情報の不足 (9) |

問6. あなたは、次の1～4のうち、今後の環境教育の推進において最も重要なものはどれだと思いますか。あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。(有効数：91)

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1. 意欲的・積極的な教員 (26) | 2. 研修の機会 (36) |
| 3. 教育委員会や校長の指導・助言 (4) | 4. 自分自身の経験・知識 (25) |

問7. あなたは、今後の環境教育の進め方について、どのようにお考えでしょうか。次の中から、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。(有効数：92)

1. どちらかと言えば、教科・道徳で実践する方がよい (19)
2. どちらかと言えば、総合的な学習の時間で実践する方がよい (31)
3. どちらかと言えば、全校活動・特別活動で実践する方がよい (34)
4. どちらかと言えば、学校教育以外の教育・学習の場で実践する方がよい (8)

問8. あなたは、環境教育のための新しい教科(例えば「環境科」)の設置について、どのようにお考えでしょうか。次の中から、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。(有効数：92)

- | | |
|---------------------------|--------------------------|
| 1. 設置する方がよい (2) | 2. どちらかと言えば設置する方がよい (19) |
| 3. どちらかと言えば設置しない方がよい (42) | 4. 設置しない方がよい (29) |

問9. あなたは、今年度(2014(平成26)年度)、環境教育に関係すると思われる学習指導を実践されましたか。該当するものを1つ選んでください。(有効数：89)

- | | |
|--------------|-----------------|
| 1. 実践した (60) | 2. 実践していない (29) |
|--------------|-----------------|

問10. 「1. 実践した」と回答された方だけにお尋ねします。今年度あなたが、比較的よく取り組んだ環境教育の学習指導を、次の〔学習内容〕と〔体験活動〕の中から、それぞれ3つ以内で選んでください。また、実践した教科等、単元(教科書教材)をお教え下さい。

問10-1. 〔学習内容〕(3つ以内) (3M. A. 有効数：58)

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1. 自然の仕組みや成り立ちの学習 (8) | 2. 生命の尊さや自然の大切さの学習 (8) |
| 3. 地域の動植物や地形などの学習 (11) | 4. 地域の文化や生活習慣などの学習 (9) |
| 5. 地球的規模の環境問題の学習 (24) | 6. 地域や国内の環境問題の学習 (15) |
| 7. 資源、エネルギーに関する学習 (31) | 8. 食や農に関する学習 (10) |
| 9. 環境に配慮した生活の仕方の学習 (16) | 10. まちづくりに関する学習 (1) |
| 11. その他 (1) | |

問10-2. 〔体験活動〕(3つ以内) (3M. A. 有効数：47)

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 1. 地域の自然に親しむ活動 (13) | 2. 地域の伝統文化に親しむ活動 (8) |
| 3. 動植物の飼育栽培活動 (6) | 4. ゴミの分別やリサイクル活動 (26) |
| 5. 地域の美化・清掃活動 (22) | 6. 空気や水の汚れを調べる活動 (2) |
| 7. 動植物の保護活動 (0) | 8. 伝統文化の保存・伝承活動 (2) |
| 9. 省エネルギー活動 (10) | 10. 環境に関連する施設の見学 (1) |
| 11. その他 (4) | |

全国小・中学校環境教育調査報告書（2014年度調査）

発行日 2015年8月31日

著者 市川智史

発行 滋賀大学環境総合研究センター
環境教育研究部門・市川研究室
〒520-0862 大津市平津 2-5-1